

学校法人 大手前学園

2014年度

事業報告書



OTEMAE EDUCATIONAL CORPORATION

Contents (目次)

● はじめに	1
はじめに	
● 建学の精神・使命	1
大手前学園の「建学の精神」	
大手前大学の使命	
大手前短期大学の使命	
大手前栄養学院・大手前製菓学院専門学校の使命	
● 法人の概要	3
大手前学園の沿革	
大手前学園の組織	
法人および各学校の所在地	
大手前学園の役員	
● 各学校の状況	7
校地と校舎	
専任教職員数	
入学定員、入学者数、収容定員、学生数	
卒業者数、就職者数	
● 事業の概要	10
法人	
大手前大学	
大手前短期大学	
大手前栄養学院専門学校	
大手前製菓学院専門学校	
● 財務の概要	48
消費収支計算書	
貸借対照表	
消費収入・支出割合	
帰属収入（推移）	
消費支出・基本金組入額（推移）	
資産（推移）	
負債・基本金・消費収支差額（推移）	

● はじめに

学校法人大手前学園は、1946年の設立以来、堅実な発展を遂げ、現在は大学院、大学、短期大学および栄養学院、製菓学院専門学校を擁する学園に成長している。

学園は、18歳人口の減少や経常費補助金の抑制等により財政的に厳しい環境にさらされている一方で、教育における質の保証が求められている中、リベラルアーツ型教育のグランドデザインの推進および実行、通信教育課程の諸施策実施および定員確保、通学課程の安定的学生確保と経費削減による財政健全化、組織の効率化と最適化、社会的責務の遂行およびコンプライアンスなどのさまざまな施策に取り組むとともに、教育研究だけではなく、地域社会および産官との連携など、社会や文化の発展に努めてきた。

また、2015年は大手前栄養学院専門学校創立60周年、さらに、2016年には大手前学園創立70周年および大手前大学創立50周年を迎えるにあたり、具体的な目標を設定すると同時に大手前学園のブランド力の向上を目指し、本格的な取り組みを開始し、更なる発展の実現に向けた事業を展開していく。教育研究、社会連携、国際化の推進に鋭意努力し、来年度は記念式典の実施、記念誌の発行に向けて計画・準備に取り組んで行く予定である。

本学園の2014年度の事業の概況を総括し報告を行う。

● 建学の精神・使命

【大手前学園の「建学の精神」】

大手前学園は「建学の精神」として、“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”を掲げている。

学園は、1946年に大手前ビジネスカレッジ（のち大手前文化学院、現大手前栄養学院）として発足し、開学の精神は、「情操豊かな女子教育」である。戦後日本の復興・再建を担うに足る有能にして情操豊かな新時代の女性を育成するため、実践力を伴う幅広い教養を重視し、いち早く市民・地域住民への貢献を標榜して、志願者のために広く門戸を開放した。

その後、大手前女子短期大学、大手前女子大学、大手前製菓学院専門学校の設立を経て、総合教育機関に成長した。

2000年に、それまでの大手前女子大学から男女共学制の大学として新たな一歩を踏み出し、2004年には、大手前女子短期大学も男女共学化して、大手前短期大学と改称した。

このような経緯を踏まえ、「建学の精神」である“STUDY FOR LIFE（生涯にわたる、人生のための学び）”に基づき、豊かな教養と専門的学術、旺盛な自己開発精神、優れた国際感覚及び問題解決能力を備えた人材を育成し、地域の教育・研究および生涯学習の中心として地域社会・国際社会に貢献することを目的としている。

【大手前大学の使命】

1. 大手前大学は、ひろく複合的領域を学習できる“リベラルアーツ”型教育のなかで、学生が「自分で創る専門性」を習得するためのきめ細かな支援を行います。同時に、学生が新たな時代を生き抜くための「社会人基礎力」を身につけるよう、あらゆる機会を通じてバックアップします。
2. 大手前大学は、西宮・伊丹という歴史的・文化的に恵まれた立地のなかで地域との連帯感をいっそう強め、文化継承と生涯学習の拠点として積極的に地域との連携・交流を推進していきます。
3. 大手前大学は、欧米やアジア地域の大学と学術協定を結び、学生の海外留学を始めとするさまざまなプログラムを通じて、キャンパスのさらなる国際化を推進していきます。

【大手前短期大学の使命】

1. 大手前短期大学は、実社会に則した実務教養教育を通じて、学生一人ひとりが自ら目的を見つけ、その目的を実現させる力を育成します。そのため教職員は、学生一人ひとりの個性と目的を尊重し、あらゆる機会において学生の自立を促すきめ細かな支援を行います。
2. 大手前短期大学は、すべての卒業生をかけがえのない財産だと考えています。学園として、同窓会を積極的に支援し、卒業生の生涯にわたるキャリア基地、同窓生・在学生の友愛と連帯のよりどころとなるよう努めます。
3. 大手前短期大学は、伊丹という地域との連帯感をいっそう強めるため、地域のニーズに応えるとともに、文化継承、生涯学習の拠点として積極的に地域との連携・交流を推進していきます。

【大手前栄養学院・大手前製菓学院専門学校の使命】

栄養学・製菓学と職業人教育のさらなる追求へ向けて

1. 大手前栄養学院および大手前製菓学院専門学校は、学園発祥の地、大阪城大手門の前に位置し、『栄養と製菓の専門教育を通じて世の中に貢献する』というスローガンのもと、実験・実習を通じた高度な技術と専門知識に裏づけされた実践力と、大手前学園の自由で楽しく温かい学風に育まれた社会性のある人材を養成します。
2. 建学の精神である“STUDY FOR LIFE”を实践する意欲の高い社会人入学生を積極的に受け入れます。また、食の分野に興味のあるアジアの留学生にも門戸を開き、優れた技術を身に付ける資格教育と、大学と双肩しうるアカデミックな研究を両立できる日本有数の専門学校を目指して栄養教諭や大学院進学者など着実な学習成果を挙げていきます。
3. 職業訓練校として、学生一人ひとりを大切に、人の気持ちのわかる心の教育を通

じて、顧客・クライアント・患者様に対して常にCSを心がけ、コミュニケーション、マネジメント、マーケティングの資質を高めた栄養士・管理栄養士・製菓衛生師を輩出できるよう努めてまいる所存です。

● 法人の概要

【大手前学園の沿革】

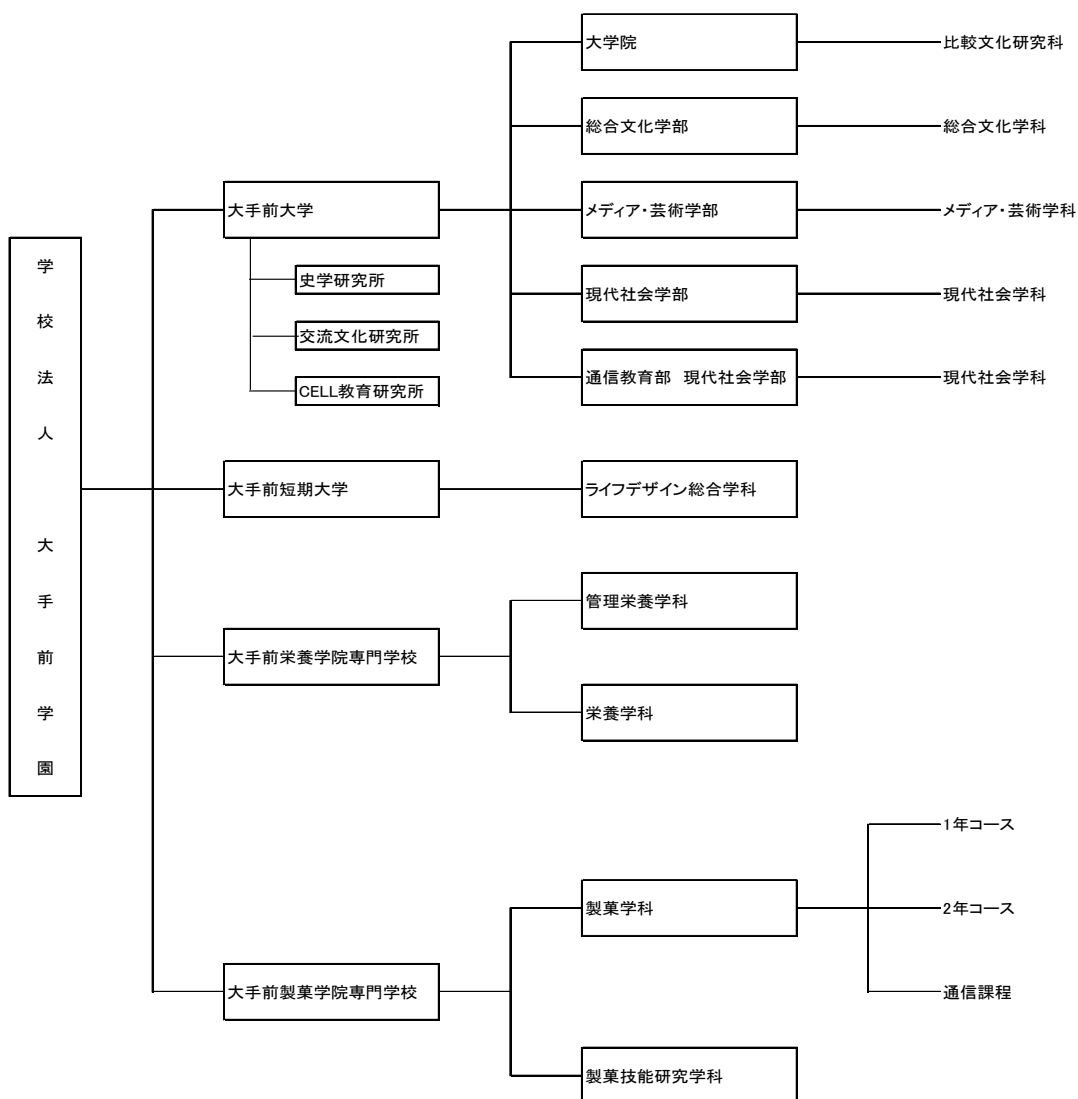
- 1946 「大手前文化学院」誕生
4月大阪城大手前周辺（大阪府中央区京橋前之町偕行社跡）に学園の前身「大手前文化学院」を創設
- 1948 同学院を財団法人職業学院制とする（大阪府中央区大手前2丁目に移転）
- 1951 財団法人を「学校法人大手前女子学園」に切替認可
藤井健造理事長就任
「大手前女子短期大学」開学
4月「服飾科」設置
- 1955 「大手前文化学院」に栄養部設置
栄養専門学校の誕生
- 1966 「大手前女子大学」開学
西宮市の夙川に文学部「英文学科」と「哲学科」の2学科を設置
- 1967 11月6日に開学祭
歴史学者の三笠宮崇仁親王殿下をお迎えし記念講演を開催
- 1969 大学に「史学科」設置、英文学科を「英米文学科」に改称
服飾科を「服飾学科」に改称
- 1971 アングロノルマン研究所を開設
- 1975 哲学科を「美学・美術史学科」に改称
- 1981 史学研究所開設
- 1986 大手前女子短期大学、伊丹市へ移転
新スローガン「STUDY FOR LIFE」を設定
短期大学移転を機に、学園のカレッジ・アイデンティティを導入
大手前文化学院を「大手前栄養文化学院」に改称
- 1988 「大手前ビジネス学院専門学校」開学、「総合ビジネス学科」設置
- 1989 短期大学に「秘書科」設置
- 1991 西宮総合グラウンド竣工
福井秀加理事長就任
専門学校大阪新学舎完成

- 服飾学科を「生活文化学科」に改称
- 1992 大手前アートセンター竣工
大学に「日本文化学科」設置
- 1996 大手前女子学園創立 50 周年、大手前女子大学創立 30 周年
大学新学舎竣工
大学院に「文学研究科修士課程比較文学比較文化専攻」設置
- 1998 大学院に「文学研究科博士後期課程」設置
栄養文化学院に「製菓学科」設置とともに専門学校を共学とする
- 1999 大手前ビジネス学院専門学校廃止
美学・美術史学科を「美術学科」、英米文学科を「英語文化学科」に改称
- 2000 学校法人大手前女子学園を「学校法人大手前学園」に改称
大手前女子大学を「大手前大学」に改称とともに男女共学とする
文学部を「人文科学部」に改称
大学に「社会文化学部」設置
社会文化学部に「人間環境学科」「社会情報学科」の 2 学科設置
- 2001 大手前女子短期大学創立 50 周年
栄養文化学院に「製菓学科通信課程」設置とともに「大手前栄養製菓学院」に改称
短期大学秘書科廃止
- 2002 大手前栄養製菓学院を「大手前栄養学院」「大手前製菓学院」の 2 校に分離、開学
同時に、栄養学院に「管理栄養学科」(4 年制)、製菓学院に「製菓学科 2 年コース」をそれぞれ設置
史学研究所オープン・リサーチ・センター開設
- 2003 大学比較文学比較文化専攻を「比較文化専攻」に改称
史学研究所オープン・リサーチ・センター竣工
アングロノルマン研究所を交流文化研究所に改称
- 2004 人文科学部に「交流文化学科」設置
大手前女子短期大学を「大手前短期大学」に改称・改組し男女共学とするとともに「ライフデザイン総合学科」設置
大手前シティカレッジ開校
- 2005 福井有理事長就任
福井秀加総長就任
大学院文学研究科を「比較文化研究科」に改称
人文科学部美術学科を「メディア・芸術学科」に改称

- 社会文化学部社会情報学科を「キャリアデザイン学科」に改称
大手前栄養学院創立 50 周年
- 2006 大手前学園創立 60 周年、大手前大学創立 40 周年、大手前大学大学院
創立 10 周年
短期大学生生活文化学科廃止
- 2007 福井有総長就任
福井秀加名誉総長就任
大学に「総合文化学部」、「メディア・芸術学部」、「現代社会学部」
設置
メディアライブラリーCELL 竣工
- 2008 短期大学が 2007 年度第三者評価の結果、適格と認定される
- 2009 CELL 教育研究所開設
- 2010 大学が 2009 年度第三者評価の結果、適格と認定される
大学に「通信教育部現代社会学部現代社会学科」設置
- 2011 大学人文科学部英語文化学科、日本文化学科廃止
大手前短期大学創立 60 周年
- 2012 大学人文科学部メディア・芸術学科、交流文化学科廃止
大学社会文化学部人間環境学科、キャリアデザイン学科廃止、社会文
化学部廃止
- 2013 福井要理事長就任
- 2014 短期大学が 2013 年度第三者評価の結果、適格と認定される
大学人文科学部史学科廃止、人文科学部廃止

【大手前学園の組織】

(2014年5月1日現在)



【法人および各学校の所在地】

- 学校法人 大手前学園 大阪市中央区大手前 2-1-88
- 大手前大学 西宮市御茶家所町 6-42
- 大手前短期大学 伊丹市稲野町 2-2-2
- 大手前栄養学院専門学校 伊丹市稲野町 2-2-2
- 大手前製菓学院専門学校 大阪市中央区大手前 2-1-88
- 大手前製菓学院専門学校 大阪市中央区大手前 2-1-88

【大手前学園の役員】（2014年5月1日現在）

○ 理事（定数6～8名、現員8名）

理事長	福井 要
理事	柏木 隆雄（大手前大学学長）
理事	福井 洋子（大手前短期大学学長）
理事	中江 正弘（㈱NBC 顧問）
理事	辰野 久夫（辰野・尾崎・藤井法律事務所所長）
理事	三木 正伸（㈱マネジメント・サポート 代表取締役）
理事	廣瀬 努（広瀬化学薬品㈱ 代表取締役社長）
理事	西村 貞一（㈱サクラハウス 代表取締役会長）

○ 監事（定数2～3名、現員2名）

監事	大村 武久（医療法人社団甲友会 理事長）
監事	藤原 薫（銀泉リスクソリューションズ㈱ 代表取締役社長）

● **各学校の状況**

【校地と校舎】（2014年5月1日現在：学校法人基礎調査報告）

○ 校地面積

大手前大学	63,382 m ²
大手前短期大学	11,391 m ²
大手前栄養学院	1,603 m ²
大手前製菓学院	872 m ²

○ 建物面積

大手前大学	38,649 m ²
大手前短期大学	8,017 m ²
大手前栄養学院	6,418 m ²
大手前製菓学院	2,882 m ²

【専任教職員数】（2014年5月1日現在）

	総合文化学部	メディア・芸術学部	現代社会学部	短期大学	栄養学院	製菓学院
教授	18	16	14	8	11	3
准教授	4	6	9	5	9	1
講師	4	4	4	1	6	4
助教	1	0	1	0	1	0
合計	27	26	28	14	27	8

職員	専任	172
	（内）期限付	69

【入学定員、入学者数、収容定員、学生数】(2014年5月1日現在)

大学

学校名	学部・学科・課程名	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者数	収容定員	2013.5.1現在
大手前大学	大学院 比較文化研究科 博士前期課程	10人	7人	7人	5人	5人	20人	8人
	大学院 比較文化研究科 博士後期課程	3人	0人	0人	0人	0人	9人	1人
	総合文化学部 総合文化学科	220人 (2年次編入 6人 3年次編入 4人)	328人	323人	250人	149人	906人	757人
	総合文化学部 計	220人	328人	323人	250人	149人	906人	757人
	メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	200人 (2年次編入 6人 3年次編入 4人)	299人	294人	230人	157人	826人	761人
	メディア・芸術学部 計	200人	299人	294人	230人	157人	826人	761人
	現代社会学部 現代社会学科	250人 (2年次編入 6人 3年次編入 5人)	451人	437人	308人	201人	1,028人	903人
	現代社会学部 計	250人	451人	437人	308人	201人	1,028人	903人
	大学 計	670人	1,078人	1,054人	788人	507人	2,760人	2,421人

	通信教育部	500人	58人	58人	58人	58人	3,000人	675人
	現代社会学部 現代社会学科	(3年次編入 500人)						
	通信教育部 現代社会学部 計	500人	58人	58人	58人	58人	3,000人	675人

短期大学

大手前短期大学	ライフデザイン総合学科	250人	268人	266人	247人	221人	500人	443人
	短期大学 計	250人	268人	266人	247人	221人	500人	443人

専門学校

大手前 栄養学院 専門学校	衛生専門課程	160人 (3年次編入 16人)	192人	188人	181人	168人	512人	501人
	栄養学院 計	160人	192人	188人	181人	168人	512人	501人
大手前 製菓学院 専門学校	衛生専門課程	170人	136人	134人	134人	128人	280人	231人
	うち1年コース	(20人)	25人	23人	23人	21人	20人	21人
	2年コース	(110人)	111人	111人	111人	107人	220人	210人
	製菓技能研究学科	(40人)	0人	0人	0人	0人	40人	0人
	製菓学院 計	170人	136人	134人	134人	128人	280人	231人
	通信課程(別科)	240人	82人	82人	82人	82人	360人	117人

【卒業生数、就職者数】(2015年3月卒業生)

大学 (平成26年度卒業生)

学校名	学部・学科・課程名	卒業・修了者数	進学者数※	就職希望者数	就職者数※
大手前大学	大学院 比較文化研究科 博士前期課程	3人	1人	1人	0人
	大学院 比較文化研究科 博士後期課程	人	人	人	人
	総合文化学部 総合文化学科	197人	7人	151人	146人
	総合文化学部 計	197人	7人	151人	146人
	メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	188人	7人	131人	125人
	メディア・芸術学部 計	188人	7人	131人	125人
	現代社会学部 現代社会学科	204人	3人	152人	144人
	現代社会学部 計	204人	3人	152人	144人

短期大学

大手前短期大学	ライフデザイン総合学科	189人	14人	148人	139人
	短期大学 計	189人	14人	148人	139人

専門学校

大手前栄養学院専門学校	衛生専門課程	158人	9人	128人	125人
	栄養学院 計	158人	9人	128人	125人
大手前製菓学院専門学校	衛生専門課程	114人	3人	92人	89人
	〔うち1年コース〕	〔20人〕	〔2人〕	〔14人〕	〔14人〕
	〔2年コース〕 製菓技能研究学科	〔94人〕 〔0人〕	〔1人〕 〔0人〕	〔78人〕 〔0人〕	〔75人〕 〔0人〕
	製菓学院 計	114人	3人	92人	89人
	通信課程(別科)	人	人	人	人

※「進学者数」の中には、各種専修学校等の入学者も含む。
 ※「就職者数」には雇用期間1年未満は含まず。製菓通信課程は職業あつせん出来ないもので数値なし。

● 事業の概要

2014年度の事業は、大手前学園中期経営計画の基本方針である次の目標を具現化するものである。

- ① 緊縮財政の実施、事業及び授業の見直し、経費の大幅削減
- ② キャンパスの維持および拡充を目的とした整備
- ③ 関係会社の見直し
- ④ 学園創立 70 周年記念事業の実施

1. 法人

<事業計画>

- ① 職員力の向上を目的として、昨年度実施した中堅職員を対象とした研修内容を踏まえ、1年間課題に取り組んだ成果の振り返りと意識改革をねらいとした中堅職員フォローアップ研修を実施する。また、女性の活躍推進の重要性を理解し、女性の能力を活用することを目的とした管理職対象の研修を実施する。さらに、専任職員に登用された若手職員を対象に、自律的に自身のキャリアを築いていく必要性を研修を通じて理解させる。
- ② 2013年4月にグランフロント大阪ナレッジキャピタル4階にオープンした、「Sweets Lab (スイーツ・ラボ)」について、大学イベントを活発に行うとともに学生の参画、教職員の支援のもと、学園の情報発信基地として機能すること、また、全面的に大手前大学を打ち出していく。

【職員力の向上】

今年度も階層別研修を継続し、昨年度に実施した「目的思考の仕事の仕方と自律的な行動への意識改革」をねらいとした「中堅職員フォローアップ研修」を実施した。昨年の研修後に課された1年間の課題の振り返りから始まり、業務改善をテーマに、各チームにおいて具体的な課題に対する現状分析や原因追及を行い、PDCAをもとに「業務改善企画書」を作成した。研修後、改めて全職員を前に各チームが前述の業務改善企画書の内容についてプレゼンテーションを行った。



また、国家施策としての“女性の活躍推進”を踏まえ、管理職職員を対象として、「女性特有の多様性を受け入れ、女性の能力を活用する」ことを目的に研修を実施した。

さらに、期限付職員から専任職員に登用された職員を対象として「正職員ステップアップ研修」を実施し、自律志向で自己成長を図る意識を再認識させた。



他に、2012 年秋よりグローバル化への取組の一環として学園が補助金を支給して実施している「職員の英語コミュニケーション力向上プログラム」が今年度に試行期間最終年度迎え、初級から上級クラスまで LEO の授業に参加してネイティブの英語に取り組んだ。今後は、受講者の意見や受講希望者の状況を踏まえてプログラムの継続を検討する。

【大手前大学スイーツ・ラボ】

オープンして2年目を迎えた「Sweets Lab (スイーツ・ラボ)」における各種取り組みを積極的に展開した。

レッスンについては、カリキュラム・コースを一新して、スイーツ・ラボの特長をより明確にした内容に改編した。また、レギュラーレッスンに加え、季節や流行を反映した各種オプションレッスンを企画し、開催した。

学園の情報発信基地としての位置づけから、スイーツ学会、大学通信課程リレートーク、スイーツバイキング、クリスマススイーツイベント等のフェアを開催するとともに、これまでの広報手段(店頭告知、パンフレット、ホームページ、Facebook、LINE 等)に加えてメールマガジンの活用にも力を入れ、幅広く各世代へ情報を発信した。

2. 大 学

<事業計画>

① アドミッション改革

偏差値 50 への大胆な改革を実施することとし、教育の質の向上と卒業生の質保証を目指すとともに、早期の定員確保を目指す。

- ・入学生の質の向上
- ・各種入試制度の実施
- ・入学時奨学金制度の見直し

② 教育改革

- ・ C-PLATS 教育改革
 - ・ グローバル人材の育成
- ③ 学生支援
学生支援に関する教職員の意識改革や知識と相談のスキルアップ、さらに、支援体制の充実と経済的並びに施設面の充実に努め、学生支援の強化を図る。
- ④ 進路支援
全教職員が学生への就職指導を徹底する体制づくりを進めるとともに学生を中心とした教員・職員・保護者・教員ボランティアが一体となった就職支援を展開する。
- ⑤ 通信教育課程
- ・ 全国マーケット展開
 - ・ 教育システム改革
 - ・ カリキュラム改革
- ⑥ 国際交流
- ・ 海外研修プログラム
 - ・ 交換留学プログラムの拡充
- ⑦ 図書館
学習支援として適正な蔵書構築と保管管理を行い、授業との連携を強め、大学学生一人当たり貸出冊数を全国平均値まで引き上げるとともに、利用者サービスを一層向上させる。また、ラーニングコモンズ機能の強化、研究支援の充実、社会連携強化に向けた取組を実施する。
- ⑧ 地域連携と社会貢献
現在取り組んでいる地域連携を充実させることにより、地域社会に貢献するとともに、事業の実施に向けた望ましい体制づくりを目指す。
- ⑨ 広報戦略
- ・ 組織改革
 - ・ マーケティング戦略の構築
 - ・ 大学イメージ戦略改革
- ⑩ 教職員力の強化
教員には、大学改革の目玉である「グランドデザイン」の実質化を推進するため従来の施策をさらに進化させ実施する。また、職員には、大学改革を推進するにあたり、専門性を高め、改革を支えるべく各種施策を実施していく。
- ⑪ 情報システム整備
教育基盤システムの整備を促進するとともに、タブレット型コンピュータなどのスマートデバイスを新たな学習ツールとして活用したモデル授業の実証・実践に取り組む。また、情報セキュリティ対策および災害時の事業継続対策とし

て、技術的な対策に加えて、規程やガイドラインなどの整備を含め、情報に対する危機管理体制の強化に取り組む。

【アドミッション改革】

1. 入学生の質の向上

今年度は、早い時期に質の向上に向かって戦略を遂行したことにより、偏差値や大学の評判が向上するとともに、志願者数は昨年対比 117%、入学者数は昨年対比 108%となった。

また、「一般入試」「センター試験利用入試」ともに合格最低点が過去最高得点となり、着実に成果が出てきている。

2. 入試制度について

「授業体験 AO 入試」について、昨年は 1 回のみ実施していたものを 2 回実施することで、昨年に比べ大幅に志願者数が倍増した。（昨年対比 196%）これは、他の AO 入試とは違い、大学において特別に設けられた 90 分授業を受講し、内容の理解度について授業クラス毎に試験が行われ、評価により入試特別奨学金制度の対象となる。

「メディア・芸術学部 作品発表 AO 入試」を募集要項に掲載し、2 名の入学が決定した。メディア芸術学部は実技試験がないのが大きな特色であり、実技を習ったことがない受験生、習いたくても習えない地域の受験生にとっては大きな魅力となっていたが、反面、実技を習っている学生にとっては魅力がない入試となっていたため実技をアピールできる「作品発表 AO（AO 面談時に作品を持参させプレゼンテーションをさせる。面談および小論文提出は従来通り）」を追加してメディア・芸術学部の学生募集を行った。

全学部対象「特技 AO 入試」を新設した。高等学校卒業までに取り組んだ資格取得、課外活動などの特技・実績を重視し本学に入学後どのように活かしていくかの意思意欲を確認する入試を実施することにより、日商簿記 2 級他の優秀な資格をもった受験生が 1 名合格し入学決定した。

「一般入試(B 日程)」において、昨年までは 1 日試験を実施していたが、2 日間両日受験させることにより志願者が増加した。（昨年対比 186%）

【入試改革前年比較一覧】

	2014	2015
AO入試（すべて）	全体評定平均値 2.5 以上	全体評定平均値 2.7 以上
授業体験 AO 入試	全 1 回	全 2 回
メディア・芸術学部作品 AO 入試	チラシによる告知 全 4 回実施	募集要項に掲載 全 4 回実施

デザイン・芸術学部建築・インテリア専攻特別 AO 入試	1 回のみ実施	全 4 回実施
特技 AO 入試	—	全 4 回実施
一般入試 (B 日程)	1 日のみ実施	両日 (2 日間) 実施

3. 入試奨学金制度の見直し

昨年までは特待制度として、「英語特待生」のみ実施していたが、2015 年度入試より「数学特待生」を追加することにより、数学の得意な受験生が増加し、優秀な入学者を確保することができた。(数学特待生入学率 67%) なお、これまで 75 点以上対象としていたが、80 点以上を対象とした。

公募制推薦、一般入試において成績上位者に特別奨学金制度を設けているが、昨年同様に入学金を除く授業料の半額免除等の制度を継続することにより、志願者数ならびに入学者数の確保が出来た。特に一般入試の 3 科目選択においては上位 20% に入学金を除く授業料全額免除を継続したことで、昨年入学率が 26% に対し、2015 年度入試においては 53% へ上がった。

遠隔地特別指定校推薦入学者に対する新生活応援奨学金制度については、昨年は入学者がいなかったが、2015 年度入試においては、対象 5 名に対して全員が入学へと結びついた。(入学率 100%)

遠隔地の学生の学力が高いということは経験的事実であるので、学生の学力向上のために、また定員確保のために、遠隔地の学生をより多く募集することはひとつの方策であると考え、遠隔地の一定の進学校に限定して、指定校推薦での入学者に対し新生活応援奨学金として入学金を免除する奨学金(新生活応援奨学金)を設け、遠隔地の優秀な学生確保の一助とすることを次年度も継続することとした。

【教育改革】

1. C-PLATS 教育改革

本学独自の問題解決能力開発メソッド「C-PLATS」をもとに学生を育成している。

Competency Faculty 活動では、全専任教職員がコンピテンシー別のグループに分かれ、教育方法の研究などの FD 活動を行っている。この活動では、教員相互の能力開発手法の発表とディスカッションを通じた成功事例の共有化が毎月行われている。今年度は昨年度に毎月開催された Competency Faculty 活動の成果をまとめ、OCD 改訂版として『OCD 2014』を発行した。今年度は特にコンピテンシーごとのルーブリック作成を目指し、情報共有や意見交換を行ってきた。

活動報告は、常勤講師を含めた懇談会(4月)と、全学 FD(9月、3月)において各コンピテンシーのリーダーにより行われた。

2. ICT 利用による教育改善研究発表会

本学の学修支援システムが高く評価され、公益社団法人 私立大学情報教育協会が主催する「ICT 利用による教育改善研究発表会」において、芦原直哉副学長・畑耕治郎情報メディアセンター長・正田浩三（就業力育成支援室長）の共著による論文『学修成果の蓄積とパフォーマンス評価を実現した学修システム群の構築(The Construction of an Integrated Learning System for Accumulation of Learning Outcomes and Performance Evaluations.)』が協会賞を受賞し、



11月25日に表彰式が開催された。受賞理由として、蓄積・振り返り・発展のステップで現状を認識し、成長を確認する4年間蓄積型の授業支援の仕組みづくりや、学生・教員・外部の教育ボランティアによる評価モデルの確立などが挙げられた。

3. グローバル人材の育成

グローバル人材の基盤教育として、「英語教育」「日本語教育」「異文化コミュニケーション」の総合的なカリキュラム編成を行った。さらに、国際教育インスティテュート（IIE）を設立し、英語特待生18名が入学、IIE専任教育5名と国際関係学専任教員1名の計6名による新教育体制をスタートさせた。

【学生支援】

1. 基礎学力の養成

キャリアデザイン等のコア科目と学習支援センターとの連携体制を整備・強化しており、さらなるチューター、SA、PSによる支援の充実を図った。

2. 学生相談窓口の充実と生活指導の強化

相談日の増加や能力のあるスタッフの配置など相談窓口の充実を図るとともに、要支援学生を対象とした「ケース会議」を開催しその成果を上げた。

3. 留学生支援

海外マーケットを期待したプログラムの推進・実質化を図るため、留学生支援体制を整備し、国際交流センターやIIEにスタッフを配置して、きめ細かな学生支援を行った。

4. 経済的支援の充実

学生が安心して学べる経済的支援は、安定した学納金収入を確保するために必要な課題であり、日本学生支援機構奨学金制度の充実で授業料相当分は貸与可能な状況となっている。また、既存の学園奨学金制度（入試特別奨学金含む）や授業料減免制度など総合的な経済支援の拡充に努めている。

【進路支援】

1. 学修成果の実証

本学では、学士課程教育のグランドデザインに基づき、「4年間の学士課程における学びにより到達した“社会に貢献できる自分”について、初対面の社会人に5分間のプレゼンテーションと20分間の質疑応答により実証し、就業力を有するものと認められる」ことを卒業に際する目標としている。「自分で創る専門性」と「社会人基礎力」を統合した「就業力」を実証する手段として、本学はプレゼンテーションを重視しており、各学年末の必修科目において、全ての学生は自らの1年間の学びや今後のキャリアについて教育ボランティアの前でプレゼンテーションを行う。その様子は録画して映像ポートフォリオとしてシステム上に保存し、成長を可視化するツールとしてこれを活用している。2011年度から始まったこの取り組みは4年目を迎え、2011年度入学生については4年間の映像ポートフォリオが完成することとなった。

また、全学年から優秀なプレゼンテーションを行う学生を選出し、学年ごとのベストプレゼンテーション賞を決定する全学プレゼンテーション大会を2011年度より開催しており、全学的な学びの場とするとともに、本学の教育成果を可視化する場として毎年学年末（2月）に実施している。2015年2月13日（金）には、本学いたみ稲野キャンパスにおいて第4回大会を挙行了。グランドデザインに基づく教育の集大成の場である本大会は、本学の特色ある取り組みとして重要な位置を占める。学生の出席状況や、プレゼンテーションのテーマ設定、評価方法など、改善点はまだ多いが、こうした点をふまえ、本取り組みが学士課程全体のなかでより有機的に機能するよう検討を進め、今後さらに発展させていくことをめざしている。

2. 教育ボランティアの活用

本学の教育改革の取組と成果を豊富な社会経験をお持ちの社会人の目から評価・助言していただき、教育の質を高めるため、2011年度から教育ボランティア制度を導入している。2014年度は昨年までの1年～3年のプログラムに加え、新たに4年の「卒業研究」履修生の専門分野に関するプレゼンテーションへの



アドバイスを実施した。また、昨年と同様に必修科目「キャリアデザイン」(1、2年)の授業内で学生が行ったプレゼンテーションに対してのコメントやアドバイス、授業外ではキャリアプランニング作成に向けての個別面談(1年)、全学プレゼンテーション大会(1~4年)における審査員等のプログラムに協力いただいた。学生の評価については、OCD内に記述したC-PLATSに基づいた評価軸を基準とした。また、プログラム終了後もeポートフォリオシステムに蓄積された学習記録について評価やアドバイスをしていた。

【通信教育課程】

1. 全国マーケット展開

地方スクーリング会場の拡充を推進しており、東京からスタートし、さらに地方在住の学生向けに岡山のスクーリング会場を増設した。2015年度学生募集からは、札幌、東京、名古屋、岡山、福岡の各地で実施し、特に関東圏、中京圏の学生が増加している。

2. 教育システム改革

- ・卒業要件の変更(2014年)
すべての授業科目を選択とし、特定の科目の必修および「専修(メジャー)」による卒業要件を廃止した。
- ・「配当年次」から「レベルナンバー制」へ(2014年)
科目ごとに「配当年次」を示し、年次によって履修を制限してきたが、これを廃止し、年次に関係なく履修することを可能とした。
- ・メディア授業の拡充(2014年、2015年)
2014年には新たに5科目を「メディア授業」に変更し、計10科目に拡充した。
さらに、2015年には7科目を追加し、合計17科目(30単位)を開講した。これにより、スクーリングなしで卒業することが可能となった。

3. カリキュラム改革

日本語教員養成課程の設置(2015年)を予定している。

日本語教員に関する科目を新たに5科目追加して日本語教員養成課程を設置し、該当する61単位から、必修7単位および選択必修12単位以上を含む27単位以上を修得すれば日本語教員養成課程修了を認定して「日本語教員養成課程修了証明書」を発行する。

【国際交流】

1. 海外研修プログラム

- ① ニュージーランド短期研修（2014年8月23日～9月13日）
学生14名（大学生11名、短大生3名）が参加。
- ② アメリカNPO研修（2014年9月4日～9月18日）
学生5名（大学生4名、短大生1名）およびコンソーシアムからも2名が参加。
- ③ 韓国短期研修（2014年9月1日～9月14日）
学生24名（大学生18名、短大生6名）が参加。
- ④ フィリピン研修（2015年2月15日～3月2日）
学生6名と交換留学生1名が参加
- ⑤ アメリカ長期研修：エベレットカレッジ。学生2名参加
（1学期1名、1年間1名）



2. 交換留学プログラムの拡充

【2014年度交換留学プログラム実績】

- ① アメリカ センテナリーカレッジ：学生1名を派遣（1年間）
- ② アメリカ チェメキタコミュニティカレッジ：学生2名を派遣
（1学期：1名、1年間：1名）
- ③ フランス パリ国立高等美術学校：学生1名を派遣（1学期）
- ④ 韓国 世宗大学：学生3名を派遣（1学期：2名、1年間1名）

<春学期：受入>

- ① アメリカ チェメキタコミュニティカレッジ：学生3名（1学期）
- ② フランス パリ国立高等美術学校：学生1名（1学期）
- ③ 韓国 世宗大学 1名（1学期）
- ④ 中国 山東大学威海分校 3名（1年間）
- ⑤ 中国 南海東軟信息学院 2名（1年間）

<秋学期：受入>

- ① アメリカ エベレットカレッジ：学生2名（1学期）
- ② フランス パリ国立高等美術学校：学生1名（1学期）
- ③ カンボジア プノンペン大学：学生1名（1年間）
- ④ 韓国 世宗大学：学生4名（1学期）
- ⑤ 韓国 カチョン大学：学生1名（1学期）

【2014年度国際交流イベント】

- ① 日本語パートナー（フレンズ）紹介
春学期は2014年5月21日、秋学期は10月1日に留学生に日本語パートナーを紹介
- ② 国際交流バスツアー実施
日程：2014年5月31日（土）
行先：京都 平安神宮、知恩院、友禅染体験
学生45名（留学生20名、日本人学生21名、職員3名）が参加
- ③ 交換留学生歓迎会ならびに送別会の実施
各学期、お昼休みにエントランスホールにて式典を実施
- ④ ホームビジット
教職員に交換留学生の受入れ可能な家庭を募集。
各学期、希望する交換留学生にホームビジット先を紹介
- ⑤ 第4回スピーチ大会開催
日程：2014年12月6日（土）
留学生部門6名、海外研加者部門7名、英語スピーチ部門8名、ゲストスピーカー3名
- ⑥ 本学学生とパリ国立高等美術学校交換留学生との二人展開催
日程：2014年7月21日～23日
場所：アートセンターギャラリー
- ⑦ ベルギーからの学生訪問団受入れ（8名）
日程：2014年7月28日
場所：いたみ稲野キャンパス
- ⑧ ベトナムからの学生訪問団受入れ（24名）
日程：2014年10月10日
場所：さくら夙川
- ⑨ LEOクリスマスパーティ
日程：2014年12月20日
場所：いたみ稲野キャンパス



3. 課外授業

- ① LEO サマーリーダーズキャンプ開催

LEO クラスを受講している学生のうち選抜された者が、サマーキャンプ参加した。毎年実施しているこの活動を通じて、英語力およびリーダーシップを身につけることを目的とする。

実施日：2014年8月4日（月）～6日（水）2泊3日

実施場所：兵庫県立いえしま自然体験センター

参加学生：34名

引率教員：ロバートシェリダン、ジョンジャクソン、ゴードンカールソン

② USJ での課外授業

USJ の提供する「教育プログラム」に参加し、事前に送られてくる教材や DVD に目を通し事前学習を行う。教育の一環として指導を行い、事後には課題の提出やオリエンテーション参加を義務付けた。

実施日：2014年10月25日（土）

参加学生：留学生を含め30名

引率教員：ジョンジャクソン、ゴードンカールソン

【図書館】

1. 学習支援

① 蔵書構築

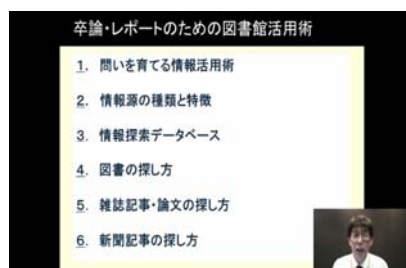
2014年度、大学6,860冊、短大921冊の蔵書(視聴覚資料を含む。購入、寄贈、雑誌からの編入を含む)を受け入れた。一方、経年劣化等による除籍処分は大学99冊、短大771冊であった。その結果、総蔵書数は大学283,261冊、短大59,001冊となった。

文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助金の交付をうけ、高額図書『プレイヤード基本コレクション』(Éditions Gallimard 全99タイトル)を購入した。

② 教育との連携

春・秋学期ともキャリアデザインにて図書館利用ガイダンスを実施した。春・秋学期とも短大生についてはフォーラムにて図書館演習プログラムを実施し、春学期課題「私が選んだ『図書館の本』」の全学生の成果を伊丹図書館 AV ホール、閲覧室で展示した。各クラス対象のガイダンスは38回実施し、資料の準備や紹介、授業時間外での個別学生のサポートなど、教員から要請を受けた授業支援は43件であった。

卒論や論文型レポートに取り組む学生を対象にした映像コンテンツ『卒論・レポートのための図書館活用術』(約60分)を制作し、el-Campus 経由によりいつでも自由に視聴できるようにした。



各章は独立した内容になっており、必要なパートのみ視聴することができる。自習のほか、ガイダンスの事前・事後学習に活用されている。

ゼミナールや授業クラスによる授業成果を cell(小教室)や中庭側ガラス壁面にての展示した。それらの事前告知や事後報告などを CELLfacebook ページを通じて公開した。



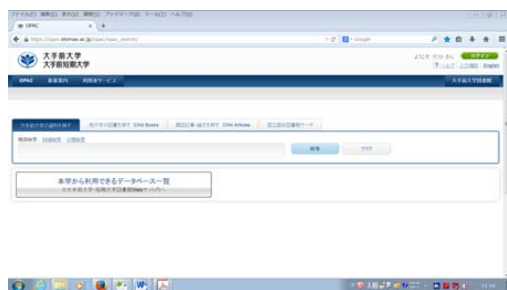
とくに図書館学課程が主催する『疎開した 40 万冊の図書』上映・講演会に協力し、同課程有志学生による特集展示「戦争と図書館」を CELL 館内にて開催した。

学生(学部通学生)の図書館利用を前年と比較すると、1人あたり貸出数が 6.95 冊から 7.81 冊へと大きく増加し、全国平均値(私立大学 7 冊)を上回った。4年生については卒論必修化のためか貸出数が 7.44 冊から 9.06 冊、1回でも貸出実績のある学生の割合は 8ポイント上昇し、過去 5 年間で最高値となった。また、図書館利用が活発化するに伴って本館が所蔵しない資料の入手希望が増え、図書館相互利用サービスが前年対比 13.7 ポイント増加した。短大学生については貸出実績割合が変わらないものの、1人当たり貸出冊数が 0.2 冊減少し、2.92 冊となった。

学習支援連絡協議会が発足し、そのメンバーとなった。これにより学習支援に関する各委員会や各部署との連携をすすめ、グランドデザインを視野に入れた学習支援体制の確立にいっそう寄与できるようになった。

③ サービスの向上

図書館システムを 3 月に更新した。ローカルサーバ設置型からクラウドサービスに変更し、メンテナンスの負荷軽減を図ったほか、著者名やキーワード、出版年などによる絞込み、類似資料の表示、本学図書館と CiNii Books、CiNii Articles、国会図書館サーチを同時に検索しタブ毎に表示、スマートフォン対応表示など OPAC(蔵書検索)検索の機能の向上を図り、デザインを一新して高評価を得た。



図書館 Web サイトにさまざまな修正、追加を行った。卒業生向けの利用案内ページの追加、データベース一覧やフロアマップの更新など、つねに新しい情報を提供し、わかりやす

く利便性の高いサイトとなるように工夫した。

CELL 公式 Facebook ページは学習支援センター、IT サポートセンター、資格サポートセンターとの共同により順調に運営し、増減はあるもののファン数は 760 を超え、大学図書館が運用するページとしては全国3位である。平成 27 年 1 月 7 日公開の教務課職員による「武雄市図書館見学レポート」は 46 人の「いいね！」を集め、過去最大級の人気コンテンツとなった。



授業内容や学習に沿ったテーマ、交流文化研究所主催の講演会や比較文化学会講演、文芸講演会との連携、娯楽・教養を中心にしたテーマなど、さまざまなテーマで特集展示を行った。内容を紹介する小冊子を作成したところ、講演講師や参加者から大変好評を博した。



利用者の意見や要望を調査するためアンケートを実施した。回答者に偏りをなくし、より普遍的な回答を得るため 26 年度は教務課および学生課の協力を得て、学年別のプログラム等にて配布した。集まった回答は今後の図書館サービスを充実させるための基礎資料として図書館運営に活かしていく。集計結果は図書館 Web サイトにて公開する。

2. ラーニングコモンズ機能の強化

① ワンストップサービスの強化

学習支援センター、IT サポートセンター、資格サポートセンターとの月例ミーティング、CELL 公式 Facebook ページへのコンテンツ掲載などにより、CELL 全体として相互の



関連を深めた。新たに CE115 に教職支援センターが設置され、教員志望学生にとってさらに利便性が高まった。設置に際しては国際交流センターや学習支援センターの協力を得て、学生が自由に利用できる cells(小教室)の数を確保することができた。

② cell(小教室)活用の促進

授業クラス、学生団体によるイベントや展示、グループによる自習やミーティングなどに利用された。また、キャリアサポート室による面接練習会なども開催され、ガラス越しに練習会の様子が見えることから該当学年以外にも強く印象づけた。

③ 伊丹図書館の改修

新学部設置計画によるキャンパス整備のため、伊丹キャンパスのラーニングcommons設置計画は再び白紙に戻ることとなった。伊丹キャンパス全体としてラーニングcommonsや自主的な学びの場を提供するためには、学習支援連絡協議会メンバーを中心に具体的に検討をすすめ、大がかりな改修より実現可能なことから着手することを提案した。

④ 「広範な学び」の誘発

特別講演「韓国における図書館情報学の研究、教育の現状と課題～共同保存書庫事情にも言及して～」(講師:啓明大学校文献情報学科教授呉東根博士)に共催し、広報や運営に協力した。



トークライブ in CELL を 6 回開催した。読書遍歴を披露してくださった前川先生、出版記念でバルザック作品を解説してくださった柏木先生、東西の本の美しさを資料を基に示してくださった林先生、落語の滑稽さを国語学から解いてくださった鈴木先生など、教員の協力を得てバラエティに富む内容となった。開催場所である CE104 の収容能力に限りがあり、参加者は平均 20 人程度である。参加者内訳は学生と教職員のバランスもよく、少数ながらも学外者の参加もみられた。また毎回、テーマにそって特集展示を企画し、収蔵資料の紹介と活用促進に努めた。



3. 研究支援

① 研究用資料の整備

教員から寄せられる研究用資料の入手希望には迅速に対応するほか、古書店の活用や関係先への寄贈依頼など、できる限りの方策により応じている。購入不可の資料については図書館相互利用(ILL)にて国内外の図書館に依頼し文献複写や現物の取寄せを行っている。また、国立国会図書館提供のデジタル化資料は「デジタル化資料送信サービス」を通じて入手できるよう同サービスを導入した。

価格上昇が著しい雑誌、電子ジャーナルやデータベースは本学の教育分野および教員の研究分野と照らし合わせ、より現状にふさわしいものとなるように整備した。

② リポジトリの運営

平成 27 年 3 月 31 日現在、「大手前大学・大手前短期大学リポジトリ」の登録コンテンツ数は大手前大学紀要 554 件、大手前短期大学紀要 60 件、CELL 教育研究所論集 23 件、博士学位論文 4 件、公開講座講義録 18 件、FD/SD 宿泊研修プログラム報告書から 14 件、その他 25 件である。

4. 社会連携

① 第 14 回公共建築賞 近畿地区優秀賞受賞

「公共建築賞」とは社団法人公共建築協会が公共建築の向上を目的として建設省(現:国土交通省)と全国知事会等の後援のもとに設立したものである。メディアライブラリー CELL は建物の優れた設計(株式会社日建設計)と施工(株式会社大林組)に加えて、竣工後の施設管理や保全(主に本学図書館)が良好に行われていることや地域社会への貢献や文化性が高いことが評価されて受賞の運びとなった。



② 学外者の図書館利用受入れ

学生や教職員へのサービスを最優先できるよう、「学外者利用要項」等の規程を改正した。また、リサイクルブックフェアや美術館等の招待券サービスなども学内者の利益を損なうことのないように配慮した。

③ 地元地域との連携

CELLにて中学生の社会体験プログラム「トライやるウィーク」について西宮市立大社中学校を受け入れた。今年度は先方の都合等により1日となり、図書・雑誌目録作業、カウンター

作業、フロア作業とあわただしいスケジュールとなった。活動の様子は Web サイトや Facebook にて発信し、中学校側にも好評を得た。

④ 学外への情報提供

図書館新築計画の視察や学習支援の事例調査のため、大学図書館や教員等が来館された。CELL の設計理念やおよび運用等について紹介と案内を行った。

- ・2014 年 5 月 九州国際大学図書館
- ・2014 年 6 月 東京学芸大学図書館、愛知工業大学大学院生
- ・2014 年 7 月 三重大学教員
- ・2014 年 12 月 立命館大学教員
- ・2015 年 2 月 日本図書館研究会研究大会
- ・2015 年 3 月 阪南大学図書館、奈良県立大学図書館

学外からの取材や掲載依頼をうけ、雑誌、フリーペーパー等に掲載された。また、cells (小教室)をテレビ番組の撮影場所として提供した。

- ・『公共建築』v.56(公共建築協会、2014.11) ・
- ・『防水ジャーナル』 v.46 no.2(新美樹社、2015.2)
- ・『C'z』(西宮大学交流協会、2015.3)
- ・『ナイト in ナイト木曜日「ビーバップ！ハイヒール」』(朝日放送、2014.4.9 放映)

4. その他

・『大学ランキング 2015』朝日新聞出版 2014.4 の「大学図書館ランキング」の総合評価において全国 761 大学中 103 位となった。

・閲覧業務を委託している丸善スタッフチームが「丸善・Knowledge Navigator 賞」(主催：丸善株式会社図書館サービス事業部)を受賞した。同賞は丸善が業務受託する全国の図書館のうち優れた成果をあげたチームに対して授与されるものである。メディアライブラリーCELL チームは「論文・レポートライティング支援の挑戦：より専門性の高いサービスを目指して」というテーマのもとに「カイゼン賞」、伊丹図書館チームは「OTEMAE ITAMI 大改造計画！！」のもとに「チャレンジ賞」を得た。同じ大学に属する複数館による同時受賞は大変に珍しいとのことで、両チームが取組んできたさまざまな試みやその成果が高く評価された。

・短大フォーラムにて実施している図書館プログラムについて「【報告】大手前大学・大手前短期大学図書館における実践報告ー図書館プログラムを通して得た教員連携ー」としてまとめ、『短期大学図書館研究第 34 号』に発表した。

【地域連携と社会貢献】

1. 京丹後市久美浜町との域学連携事業

少子高齢化や若年層の流出など、地域課題の解決を目指し、域学連携事業に取り組

んでいる京丹後市で、本学の谷村要講師（メディア・芸術学部）のゼミ生 34 名が 8 月 24 日から 28 日までの 5 日間、夏合宿を実施した。域学連携事業とは、地域連携のノウハウを持つ大学と地域が協力し、課題解決に向けた取り組みを行うもので、今年度はその一環として、①久美浜町蒲井・旭地区の振興、②久美浜町域の観光とスイーツ開発、③京丹後市のバスラッピングのデザイン作成をテーマに共同事業を実施した。この夏合宿では久美浜町内の施設見学や漁業体験をはじめ、地元区民・関係者とのワークショップによる現地調査が行われた。参加学生は 10 月 25 日・26 日に京丹後市で開催された「公共政策学会」における「公共政策フォーラム」で、「コンテンツツーリズムによる地域資源連携の試み～京丹後市・京丹後七姫を事例として～」というテーマで今回の調査報告を発表した。また、2 月 1 日には京丹後市の北近畿タンゴ鉄道峰山駅前で「京丹後七姫ラッピングバス出発式」が開催された。バスにはメディア・芸術学部教員の審査を経て選ばれた 6 作品がラッピングされ、実際に路線バスとして市内を毎日走る予定である。今後も継続して京丹後市との共同事業を進めていく。



2. さくら祭の開催

クラブを統括する課外活動委員会と大手前祭実行委員会により結成された「さくら祭実行委員会」の企画・運営で、新入生歓迎と地域住民との交流をテーマに 2014 年度で 5 回目となる「さくら祭」を 4 月 12 日（土）に開催した。

数を重ねるごとに地域住民からの認知も定着してきている。クラブ学生によるイベントや模擬店だけでなく、地域のサークルも出演に協力いただいている。多くの学生、家族連れ・地域住民の方々が展示、発表、屋台などを楽しんだ。今年も「みやたん（西宮市観光キャラクター）」の参加があり、子供達は大喜び、会場は大いに盛り上がった。



3. クリーンキャンペーンの実施

課外活動委員会が企画し、本学の全公認団体に所属する学生が参加して実施する地域清掃活動「クリーンキャンペーン」を2014年度は春秋の2回実施した。この取り組みは、日頃お世話になっているキャンパスの周辺地域をグループに分かれて1時間ほど清掃活動を行うものである。150～200名の学生が参加し、道路や溝など、さらには標識などの公共物施設などもきれいにする為、近隣住民から「ご苦労様、ありがとう」などの声掛けを頂けるようになり、年々、地域に浸透してきている。



4. その他の活動

○ いたみわっしょい（学生個人、NPO 法人いたみタウンセンター）

伊丹の中心市街地活性化・青少年健全育成・新しい文化を旗印に、ダンス、踊りを通して元気なまちをつくる事を目指すもので、伊丹市や伊丹商工会議所も連携したイベントである。いたみホール、阪急ビルリータ、三軒寺前広場の3会場で実施される。大学生を中心とした実行委員会が様々な企画を考え運営されており、本学からは、いたみわっしょい実行委員長としてメディア芸術学部3年生の平松伸行さん、局長としてメディア芸術学部3年生の高谷莉奈さんが活躍をした。



○ NCP（西宮市大学交流協議会大学連携学生プロジェクトチーム）

西宮市大学交流協議会に参加している大学の学生が集まった学生組織が、西宮市大学交流センターを拠点に大学・大学生と地域の連携を生かしたまちづくりを進めるため様々な活動を実施している。本学からは1名が参加し、定例会とフリーペーパー発行やイベントの企画・運営に積極的に参画、活動した。

○ ゴルフ部

全国大会常連校として高いレベルを維持しており、2014年度も、5月の関西学生春季1部学校対抗戦で女子が見事優勝、全国大会出場権（3位までが全国大会出場）を獲得した。6月の全国大会でも準優勝という好成績を残した。個人では3年女子の井上選手が、6月にスイスのクランシュルシエールゴルフクラブで行われた世界大学ゴルフ選手権に出場するなど団体以外にも大きく活躍した。



○ 和装部

26年度4月に行われた「2014年全日本きもの装いコンテスト」にて、男子の部（個人）、女子学校対抗の部ともに4位の結果を残した。11月に行われた「全日本きもの装いコンテスト」では、女子学校対抗の部で見事優勝し、次年度4月に行われる世界大会への出場権を獲得した。



【広報戦略】

1. 組織改革

アドミッションズオフィスと学園広報室の統合による迅速で効率かつ機動的な組織編成を行った。3つのチーム（渉外チーム、メディア・広報チーム、入試チーム）に再編し、機能的組織再編成を行うとともに、情報・データの一元管理を行い、各チームの協働体制を構築させた。

〈渉外チーム〉は、高校訪問を集中的に行い、2014年度には協定校を16校から31校にするなど増加した。

高校内ガイダンス実施について、昨年63回実施のところ2014年度は159回と倍増している。また池田北、柴島等の協定校を中心に保護者対象の説明会開催を実施した。夢ナビ講義ライブ等の進学イベントに参加することにより進学相談会参加人数が昨年675名から1159名に増加した。

〈メディア・広報チーム〉は、朝日新聞の大学力特集（2014年5月27日）に出稿す

るなど、本学の教育改革とその成果を広く社会に訴えた。
同時に教育改革に関する論文発表、講演などを精力的に行い本学の取り組みをアピールすることができた。

国際教育インスティテュートにおいて、GJS, GBS, GCS、トランスファーなど様々のプログラムが充実し、バラエティに富んだ海外留学生の受け入れ、英語力の高い特待生の入学などについて、広報活動を強化した。キャッチコピーを「実践英語がうまくなる大手前」とし、IIE 中心の広報およびアドミッションと広報の組織再編による少数精鋭の集団が協働する体制が整うとともに、短期間の間に成果を上げた。

〈入試チーム〉においては、入試実務の正確な理解と業務の実行、渉外チーム、メディアチームに必要な情報の提供を行いサポートした。

2. マーケティング戦略の構築

- ① 中長期的標的市場を偏差値 50 とし、英語に興味のある学生とする。
- ② 入学者の質を向上させる。
- ③ キャッチコピーを「実践英語がうまくなる大手前」とする。(IIE 中心の広報)
アドミッションオフィスと広報グループ統合により、統一デザインによる大学イメージの統一を実施し、本学のキャラクターとして「ルパン三世」を活用するなどイメージを明確にした戦略を取り、イメージが定着した。

偏差値および「実践英語がうまくなる大手前」「ルパン三世」を意識した広報戦略を実施し、また、偏差値の高い英語に興味のある高校生へ、全国模試実施のタイミングを狙ってのメール DM 配信した。さらに、大学案内、入試情報サイト、オープンキャンパス DM、進学情報誌、駅看板など・オープンキャンパスでの英語関連イベントを実施した。

English Cafe 来場者 234 名 / 英語模擬授業参加者 185 名(2013 年度 19 名)

3. 大学イメージ戦略改革

「大手前大学といえば……である」、という基本方針に合致した明確なイメージをつくとともに、英語に注力している、国際化に対応している大学というイメージを構築するように改革した。

英語関連の模擬授業参加者数が昨年対比 8.7 倍であることを証明し、「実践英語がうまくなる大手前」というキャッチフレーズを繰り返した広報戦略を実践することにより、“英語の大手前”が浸透しつつある。

LINE@

最新情報を配信中!



【教職員力の強化】

教員については大学改革の目玉である「グランドデザイン」の実質化が当面の目標であり、それを推進するためにこれまで行ってきた施策を今後もさらに深化させ実施していく。

- ・「グランドデザインの実質化」へのFD
- ・「C-PLATS」の浸透と高度化を目指したFD
- ・教員相互による授業見学による教育力のアップ
- ・学生による授業評価アンケートによる授業改善
- ・研究推進
- ・新規教員採用（専任・非常勤）にあたり、公募による優秀教員の確保

職員については、大学職員としての専門性を高め、改革を支える事務組織体制の確立のために、自己啓発の促進やSDを通じた能力開発を組織的に強化していく。

【情報システムの整備】

① 「情報セキュリティ強化」

情報セキュリティ委員会の設置や情報セキュリティポリシーの設定をおこなった。

② 「ICT化への対応」

学生が利用可能なコンピュータは両キャンパスで合計 832 台が設置されている。

さくら夙川キャンパスでは 482 台、いたみ稲野キャンパスでは 350 台のコンピュータがネットワークに接続されている。2014 年度、夙川キャンパスの全ての学習スペースは無線 LAN によるネットワークが構築され、接続が可能となった。

いたみキャンパスは 2015 年度内に全キャンパス無線 LAN によるネットワークを拡大する計画である。

今期、学生モニターを募集して学内での利用実態や学生の意向などのアンケートを実施し、今後、無線 LAN が学習面でどのような活用が可能か検証を行っている。また、情報システムの管理運用は IT 関連の専門的な技術知識を備えた専門職員で構成された情報メディアセンターが窓口となり、素早く的確な判断により端末機器及びネットワークの保守、監視及び管理を行っている。

③ 「大手前大学における JMOOC の取組」

一般社団法人 日本オープンオンライン教育推進協議会（略称：JMOOC）が提供する無料講義として、前学長の川本皓嗣名誉教授による「俳句一十七字の世界」を提供した。JMOOC は、e ラーニング配信事業やコンテンツ制作を手掛ける企業と教育ノウハウを持つ大学などによる全日本規模での産学連携体制によって設立され、2014 年 4 月より無償でのオンライン学習コンテンツの提供を始めた。

JMOOC 発足当初より加盟している本学は、8 月からオンライン学習、9 月には対面学習を融合させた「反転学習」を実施した。受講者は、約 6800 名、修了者は約 1700 名（完了率 25.0%）で他講座の平均完了率は 10%台で他講座と比較し、コンテンツの完成度や完了率の高さなど受講者や JMOCC 事務局から高い評価を得た事は非常に光栄な事であり、本学の使命である生涯学習・社会貢献の具現化のひとつとなっている。

【附置研究所】

1. 史学研究所

① 戦略的研究基盤形成支援事業のまとめと新事業申請

本年度は、事業期間 5 年の文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業（研究拠点を形成する事業）の最終年度であった。成果報告書の概要を 2014 年 9 月に文部科学省に提出し、一定の評価を得た。この成果を基礎として、さらに発展させるべく、新たな研究プロジェクトを、同じ戦略的研究基盤形成支援事業に申請することとなった。所内で原案を取りまとめ、理事長・学長をはじめとする史学研究所運営委員

会の議を経て、2015年2月に文部科学省に提出した。採択結果は6月ごろの見通しである。

② 研究報告等の刊行

各サブプロジェクトにおいても、これまでの研究成果の取りまとめをおこない、多くの研究報告を刊行した。

サブプロジェクト1「情報化による歴史文化遺産の調査研究と保存活用の新手法」では、丹波市達身寺仏像群の調査報告書を2015年3月に刊行した。初の網羅的な仏像群の紹介であり、三次元レーザ形状計測の成果も含め、詳細が未解明だった資料群の実態に迫るものである。

サブプロジェクト2A「墳墓・信仰・祭祀の基礎研究」では、香美町教育委員会と共同して、美方郡香美町文堂古墳出土資料の調査報告書を刊行した。また、報告書刊行にあわせ、2014年5月10日には公開シンポジウム「但馬の古墳群と文堂古墳」を開催し、『図録文堂古墳』を資料として配布した。

サブプロジェクト3A「環境史や社会史の視点による地域歴史景観の再評価」では、『播磨六箇寺の研究Ⅱ』として、姫路市書写山円教寺所在の史料および石造物の研究報告を2015年3月に刊行した。

② 公開講座「大阪湾岸の古墳」の開催

サブプロジェクト4「地域歴史文化遺産における持続発展教育の実践」の活動の一環として、公開講座「大阪湾岸の古墳」を2014年9月27日に開催した。参加者は240名を超える大盛況であった。研究成果の地域への還元として、例年きわめて好評であり、今後も継続していきたい。

③ 西宮市内博物館等連携講座への協力

上記までの戦略的研究基盤形成支援事業の活動とは別に、本年度より「西宮市内博物館等連携講座」への協力をおこなった。西宮市教育委員会が主催するもので、2014年9月より2015年3月までの計10回、史学研究所を会場として実施した。市内各館の学芸員等が講師となり、史学研究所からも小林所長と岡本研究員が講師を担当した。各回とも好評のうちに終了し、本学の地域貢献としても大きな成果をあげた。来年度以降も継続する予定である。

2. 交流文化研究所

① 文芸講演会

実施日	講演テーマ	講師
7/12(土)	SFと関西－阪神間を中心に－	堀 晃(SF作家)
2/28(土)	「SF・笑い・発想を語る」	かんべむさし(SF作家)

② 日仏文化交流シンポジウム

実施日	講演テーマ	発表者
11/22(土)	1.物語マンガの発展—米・仏・日の差異—	小野耕世 (評論家・国士舘大学客員教授)
	2.バンド・デシネの遺伝子と進化論	パトリック・オル(翻訳家)
	3.アジアにおけるマンガの特徴と現状	倉田よしみ (漫画家・大手前大学客員教授)
	4.日本マンガの現状と特徴	徳田俊之(漫画家・大手前大学教授)
11/23(日)	1.フランス漫画の原点—ド・ミエとガウアルニー	柏木隆雄(大手前大学学長)
	2.社会を映すメディアとしてのマンガ —風景の描写から—	石毛 弓(大手前大学准教授)
	3.『タンタン』と『アステリクス』の日仏受容	岩本和子(神戸大学教授)
	4.日本の食卓から世界の食卓へ(対談)	うえやまとち(漫画家・大手前大学客員教授) 倉田よしみ(漫画家・大手前大学客員教授)
	5.『坂道のアポロン/Kids on the slope』 マンガ共同翻訳のプロセス、可能性とその意義(対談)	関口涼子(詩人・翻訳家) パトリック・オル(翻訳家)
	6.開かれた境界	カリーヌ・ムリス(バンド・デシネ作家)

③ ママとキッズのためのキッズイングリッシュセミナー

実施日	テーマ	講師
1/24(土)	・リズムと音から入る英語体験 ～歌・チャンツ・ゲームで楽しむ英語～	山田 泉 (大手前大学非常勤講師)
1/31(土)	・ママのためのレクチャー ～子どものうちから英語に触れることの効用～ ～チャンツ、フォニックスの具体的な導入の仕方～	

【その他】

○ 料理対決 (神戸新聞 2014/11/03 付朝刊)

料理がテーマの作品を連載する漫画家、うえやまとちさんと倉田よしみさんによる料理対決「クッキングパパVS味いちもんめ」(神戸新聞社など後援)が2日、西宮市郷免町の大手前アートセンターで開かれた。

うえやまさんは「クッキングパパ」、倉田さんは「味いちもんめ」の作者で、いずれも

西宮 東北産食材用い料理
漫画作者2人が対決

連載約30年の人気漫画。2人は大手前大の客員教授で、同大で開催される原画やパネル展示による2人展に合わせ、料理対決が企画された。

東日本大震災の復興支援として、宮城県石巻市の魚介類など東北産の食材を使用。学生ら約100人が見守る中、特設の調理台で、うえやまさんはタラの白子をまとめた「タチだん

クッキング
パパVS
味いち
もんめ

ご」、倉田さんは「カキ入り明石焼き」に挑戦した。

来場者が試食後、投票し、対決は僅差でうえやまさんが勝利。うえやまさんは「とれたて食材を味わってもらえた」と振り返り、倉田さんは「被災地を思い出すきっかけにできれば」と話した。(太中麻美)



倉田よしみさん(手前)と、うえやまとちさんが腕をふるった料理対決—西宮市郷免町

3. 短期大学

<事業計画>

- ① 教務関連について、C-PLATS の有効的な活用、各種アンケートの検証と見直しおよび 2016 年度の学生募集に向けたカリキュラム改革を推進していく。
- ② 就職関連について、「就職に強い短期大学」の実現に向けて、就職支援対策の強化と教職員間の情報共有を徹底していく。
- ③ FD 関連について、地域貢献活動の継続と事務局の強化、教職員間の連携による問題を抱える学生の理解とサポートおよび PBL 型課外学習活動の計画と実施を行う。
- ④ 広報・入試関連について、短期大学独自の協定校を強化するとともに、短期大学を持たない高校への優遇措置などターゲットを絞って確実な学生確保に向けて渉外活動を強化する。

【教務関連】

1. C-PLATS の有効活用

学生の C-PLATS データと就職内定データにより、学生の各能力と内定（時期）との相関について調査検証を推進すべく検討を開始した。強い相関のある能力を、各授業で高める施策・方法を今後検討していく。

2. 各種アンケートの見直し

モバイルを活用したアンケートシステム「C-POS」の活用は定着してきており、さらに効果的なアンケート項目に変更を加えるなど検討を進めている。

3. カリキュラム改革

毎年学生のニーズや社会の動向を睨みながら新たなカリキュラム改革に取り組んでおり、2016 年度からは「心理系」「医療事務系」など新たな系・ユニットを拡充させる。入学者アンケートでも本学のユニット自由選択制が高い関心と評価を得ており、入学後の在學生からも高い満足度を得ている。引き続き学生募集の状況に鑑み、受験生に魅力的で、社会から支持される新しい分野開設を検討していく。

【就職率の向上】

短期大学生の就職活動は、入学後 1 年足らずから開始されるため、就業力の育成ならびに就職活動の準備には、十分な時間がない状況にある。そのため入学当初より卒業後の進路について意識させ、職業をもって自立できるよう様々な支援プログラムを実施している。

1. 入学当初の活動

キャリアカウンセラーの職員と新入生の全員面談を行い、本学を選択した理由や学習目的、そして卒業後の進路について把握し、学生ひとり一人に合ったきめ細かい支援に繋げている。また、春学期の必修科目である「ライフデザイン論」では、アウトキャンパス授業として、近隣の製造業を中心に工場見学を実施し、ものづくりの現場とそこで活躍する女性社員の講和を聞くことにより、職業観の涵養を図っている。



2. 夏季休暇期間中の活動

29社の企業に実に就職希望者の約3分の1にあたる53名がインターンシップ(就業体験)に参加した。参加した学生は、自己紹介書の作成にはじまり、マナーや動機付けに関わる事前研修を経て、1週間から2週間、長いもので1ヵ月の実習期間を過ごすことになる。この就業体験は、社会人に必要なスキルを学び、事業や仕事の理解を深め、学生の成長を促す貴重な機会となっている。



3. 面接練習会の実施

昨今、面接そのものに恐怖心を抱き就職活動の第一歩が踏み出せない学生も多い。そこで、アドラー心理学に基づき、短所は一切指摘せず長所のみを見つけ出して自信付けさせる、「勇気づけの面接練習会」を行った。面接役は、すべて企業に勤務するキャリアカウンセラーの資格を有する学外ボランティアであり、面接後のアドバイスでは、和やかな雰囲気の中で自信に繋がる温かい言葉をかけられ、更に勇気づけるために面接役から学生一人ずつにあてた手紙を送っている。他に「本番の面接練習会」や「履歴書の添削会」でも学外の社会人ボランティアの方のご協力をいただいている。このように、地域社会の教育力の活用や組織で活躍する社会人との接点は、学生の態度や姿勢、そして汎用的能力の育成にとって欠かせないものとなっている。



4. 秋学期の活動

業界を代表する企業を学内に招聘し、事業内容や具体的な仕事について詳細な説明を

行う「業界セミナー」を開催した。10回のセミナーうち最低でも6回以上の参加を義務付けているが、1回に100名を超える参加者のあるセミナーもあって活況を呈している。

5. その他

最後に、今年度は就職活動の早期化による学業への影響を是正するため、採用広報及び採用選考の開始がそれぞれ後ろ倒しになり、学生にとっては就職活動の期間が短縮されることとなった。そのため、的確な企業選択と効率的な活動が求められ、その対策として3回にわたる「就活実践講座」を開講し、その実践力の養成に努めた。具体的には、短大求人企業の見分け方や職種別の推奨企業を提示することにより無駄のない企業選択の仕方を学んだ。さらに、学内のパソコン教室を使って実際に志望する企業にエントリーを行わせ、就活の第一歩を踏み出せるようにした。その結果、春休み期間中にキャリアサポート室を利用する学生が増加し、就職活動のスタートが順調に切れている。

以上のように、地域社会や組織で活躍する社会人との接点を活用し、実効性の高い就業力ならびに就職支援プログラムの実施と個別学生のキャリアカウンセリングを強化することにより、昨年度を超える就職内定率を達成することができている。

【FD 関連】

1. 地域貢献活動

近隣地域の伊丹、尼崎などの企業、施設などに学生グループが赴き、ニーズ調査、事前準備を含め様々なプロジェクトを立案し、実践する中で問題解決能力を育成することを目的に、保育所(こぼと保育所)、高齢者・障害者施設(アイ愛センター)におけるサポート、公共施設(JR 尼崎駅)での広報活動等のボランティア活動を行った。



2. PBL 型課外学習

学内で学生の学習意欲向上を目的にして、PBL (プロジェクト・ベースド・ラーニング) 型課外学習として、学生の能動的な学習のサポートを行う「勉強会」を企画した。

具体的には、授業の課題や資格取得のための勉強など、同じ目的を持った学生が集ま

り、課題の完成や資格試験の合格などの目標達成のための努力を互いに励ましあいながら続けることにより、学習意欲を向上させ、一人で解決できない問題も、皆で協力して解決するための能力を育成する。また、すでに資格を取った学生が PS（ピアサポータ）として他の学生の資格取得を支援するものである。

3. FD 関連

今年度も多様な学生への対応に苦慮する教職員のため、学生相談室臨床心理士によるセミナー「さまざまな問題を抱える学生の理解とサポート②」を開催した。

2014 年度 FD 委員会 議事要録

	開催日	開催時間	主な議案	
1	平成 26 年 4 月 15 日 (火)	15:00～16:00	・2014 年度特別教育研究費 2 件の申請 訂正について	討議形式
2	4 月 22 日 (火)	11 : 00～12 : 20	・2014 年度の活動について	討議形式
3	5 月 27 日 (火)	11 : 00～12 : 20	・地域貢献活動について ・2014 年度第 1 回 FD/SD セミナーについて	討議形式
4	6 月 10 日 (火)	11 : 00～12 : 20	・地域貢献活動の拠点 N309 の表札（ネーミング）について ・FD/SD セミナーの日程について ・地域貢献活動再募集について	討議形式
5	7 月 1 日 (火)	16 : 30～15 : 00	・FD/SD セミナーについて ①次第の確認 ②事例等アンケートについて	討議形式
6	7 月 15 日 (火)	16 : 30～17 : 30	・秋学期から活動予定の学習支援プログラムについて ・水辺まつりへの活動参加について	討議形式
7	9 月 2 日 (水)	13 : 30～15 : 00	・FD/SD セミナーについて ・各担当部局との打ち合わせ	討議形式

8	9月16日 (火)	15:00~16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談室臨床心理士 大西靖子氏によるセミナー「さまざまな問題を抱える学生の理解とサポート②」 	セミナー
9	10月14日 (火)	13:30~15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 尼崎駅、こぼと保育所、アイ愛センター、水辺まつりの近況報告と報告会について ・学習プログラムの今後の活動について ・社会連携委員会関連について 	討議形式
10	11月11日 (火)	15:00~16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・11月25日(火) 地域貢献活動報告会について ・各活動のその後について ・学習プログラム説明会について 	討議形式
11	11月25日 (火)	16:30~18:00	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動の学生による報告会 ・担当企業との懇親会 	報告と確認
12	12月9日 (火)	13:30~15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献活動 HP 掲載報告 ・学習プログラムについて ・短大中期計画進捗状況報告について 	討議形式
13	平成27年 1月13日 (火)	15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プログラムについて ・12月以降の地域貢献活動報告 ・他大学観察・研究について ・2015年度委員会活動について 	討議形式
14	2月3日 (火)	13:30~15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学視察について ・学習プログラムについて ・学生功労賞について 	討議形式
15	2月25日 (水)	11:00~12:30	<ul style="list-style-type: none"> ・相模女子大学・短期大学、横浜商科大学視察報告 ・特別教育研究「地域貢献活動」「学習プログラム」2014年度報告と2015年度申請について ・2015年度「地域貢献」「学習プログラム」内容について ・2015年度FDセミナーについて 	討議形式

16	3月10日 (火)	13:30~15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教育研究、「地域貢献活動」「学習プログラム」2014年度報告と2015年度申請について ・2015年度、「地域貢献活動」「学習プログラム」内容について ・2015年度、FDセミナーについて 	討議形式
----	--------------	-------------	---	------

4. 広報・入試関連

① 大学体験授業の拡大

「授業体験 AO 入試」について、昨年は1回のみ実施していたものを2回実施することで、昨年に比べ大幅に志願者数が増加した。(昨年対比 200%) これは、他の AO 入試とは違い短期大学において特別に設けられた 90 分授業を受講し、内容の理解度について授業クラス毎に試験が行われ、評価により入試特別奨学金制度の対象となることから人気が高い。

学科	2014				2015			
	参加者	エントリー	志願者	入学者	参加者	エントリー	志願者	入学者
ライフデザイン総合	106(※)	17	17	16	205(※)	35	34	33
合計		17	17	16		35	34	33

※大学短大含む

② 広報戦略の再検討

アドミッションズオフィスと学園広報室の統合による迅速で効率かつ機動的な組織編成を行い、3つのチーム(①渉外チーム、メディア・広報チーム、入試チーム)に再編した。機能的組織再編成を行うとともに、情報・データの一元管理を行い、三つのチームの協働体制を構築させた。

〈渉外チーム〉は高校訪問を集中的に行い、2014年度には協定校を16校から29校にするなど増加した。高校内ガイダンス実施について、昨年63回実施のところ、2014年度は159回と倍増している。また池田北、柴島等の協定校を中心に保護者対象の説明会開催を実施した。指定校制推薦入試において奨学金の対象枠を評定平均これまで4.3から3.5にしたこともあり志願者数、入学者数が増加した。(入学者昨年対比131%)

〈メディア・広報チーム〉においては短期大学のホームページを全面リニューアルして受験生から見る短期大学の魅力をアピールすることができた。オープンキャンパスにおいては、短大卒業生と在学生在が語る「就職」など、高校生に理解しやすい内容で進行することができた。模擬授業の回数を増やし、「国際コミュニケーション」「プレゼンテーション」等の模擬授業も開催した。入試説明会で在校生を活用し、参加者の関心度・信頼度を向上させた。また、スイーツデザインコンテストとして来場者より応募したケーキのデザインが審査の結果受賞し、11月17日から2

週間グランフロント大阪北館にあるスイーツラボで販売された。

〈入試チーム〉においては、入試実務の正確な理解と業務の実行、渉外チーム、メディアチームに必要な情報の提供を行いサポートした。

③ オープンキャンパス参加型 AO 入試の拡大

オープンキャンパス参加型 AO 入試については、昨年 7 回のところ、8 回に増加した。昨年対比としては志願者数 90%、入学者は 92%であった。

4. 栄養学院

〈事業計画〉

- ① 管理栄養士国家試験合格率の向上維持に向けて、スタッフの増員および国試対策システムの再構築、「特別演習」と「フォーラム」の認定対策および学力向上システムを構築する。
- ② 入試制度の改革、奨学金制度の充実、大学・短大・専門学校との連携強化を図り、学生を確保する。
- ③ 各種施策を実行し、就職支援を強化して充実させる。

1. 専門教育の取り組み強化

国家試験合格者数第 1 位のキャッチフレーズを継続すべく、国試サポート室と 4 年生担任・研究室助手と連携した TA 制度をベースに精力的に取り組み、今年も好結果を生みだしている。

また、学生の基礎学力強化のため 2013 年度新入生から開始した「基礎学力向上システム」により、入学直後に弱点補強をおこなうプログラムも効果を発揮しており、学習意欲低下による退学者の減少につなげていく。

① 管理栄養士が 89 名誕生

2013 年度の管理栄養士国家試験結果が 5 月 7 日（水）に厚生労働省より発表された。

本校の管理栄養学科 9 期生（新卒）は 85 名が受験し、うち 70 名が合格となった。合格率は 82.4%と昨年度 89.7%を下回ったが、管理栄養学科既卒合格の 4 名と栄養学科既卒合格の 15 名を加えると本学の合格者数は 89 名となり、全国専門学校（管理栄養士課程）中、また大阪府の大学を含めた中でも、9 年連続第 1 位を達成した。

② 栄養士実力認定試験において全国 20 位以内に 5 名がランクイン

認定 A 取得と「食育栄養インストラクター」の資格認定をめざし、12 月 7 日に管理栄養学科 3 年生 83 人と栄養学科 2 年生 71 人、合計 154 人がチャレンジした。

全国で 9,906 人が受験した中、A 評価認定を管理栄養学科 99%、栄養学科 92%の学生が取得する素晴らしい成績で、また、成績上位ベスト 20 位以内には、栄養学科 3

名、管理栄養学科 2 名の学生がランクインした。さらに、全国平均点 39.2 点に対し、管理 3 年生は 47.4 点、栄養 2 年生は 46.4 点と全国平均を大きく上回る成果をあげた。

③ 2014 年度栄養教諭採用試験に 4 名が合格

本年度の栄養教諭採用試験の可否発表が各都道府県で行われ、合格者 4 名を輩出し、2005 年度に「栄養教諭課程」を設けて以来、9 年連続の合格者輩出となった。

④ 家庭料理技能検定 1 級に 2 名合格

文部科学省後援 家庭料理技能検定（通称「料検」）のテストが、9 月に全国 79 会場にて行われ、受験者総数 3,646 名（昨年対比 2.7%増）のうち 1 級受験者は 82 名で、合格者は全国でわずか 12 名（合格率 14.6%）という難関の中、管理栄養学科 3 年の石岡靖恵さんが見事に合格した。

2. 産官学連携・就職活動支援

地元・大阪や企業との連携活動、また卒業生との研究会など社会人との交流を通じ、実践力・適応力強化を図る目的で、様々なイベントに参加した。

① 2014 年度食育・啓発活動報告

今年度もいろいろな場所で食育活動を行い、食育についていろいろな経験を積んだ。

○ 8 月 5 日（火）：大丸心斎橋店 本館 7 階 催場

「おおさか食育フェスタ 2014」への出展と、着ぐるみボランティア参加

○ 8 月 19 日（火）：大阪府下の各スーパー 計 4 ヶ所

大阪府「野菜バリバリ朝食モリモリ元気っ子推進キャンペーン」スーパーで食育へのボランティア参加

○ 10 月 4 日（土）：ボランティア部とベンチャー部のメンバーが、大阪市中央区「健康展&食育展」への出展参加

当日は、なにわ伝統野菜の「玉造黒門越瓜（たまつくりくろもんしろり）」を使ったレシピコンテストの表彰式も行われ、本学・管理栄養学科 4 年生の山田晃子さんと吉野日奈子さんが入賞した。



○ 10 月 25 日（土）：大阪市西成区民センターの「みんなの健康展」で健康づくりの啓発活動を行った。活動内容は、「管理栄養学科 2 年生による栄養成分表示やトクホに関する啓発活動」と「管理栄養学科 4 年生ゼミ活動による“家庭

の常備食材を使用した災害時レシピ“」情報の提供。

- 3月14日 北野病院主催「きたの料理教室」にボランティア参加
本学調理実習室において、減塩と低カロリーを目的とした管理栄養士による料理教室が開催され、在学生在がボランティア参加し、患者様やそのご家族と接する貴重な経験をした。



- 3月24日(火) 農水省近畿農政局大阪地域センターや大阪府などが主催する「食育ヤングリーダーフォーラム」が開催され、「食育ヤングリーダー育成支援事業」活動発表会に参加した。この1年間でおこなった健康展や食育フェスタにおいて健康づくりの啓発活動について、発表を行った。



② 第3回「臨地実習研究会」を開催

本研究会は、学生の学外実習先において特に病院で教育指導をお願いしている管理栄養士の方々をお招きし、実習状況について意見交換を行い、臨地実習をより良い内容にしようと発足した研究会で、今年度は9月4日(木)に開催され、18病院18名の参加をいただき、実習時の学生の様子や事前指導などについて、活発な意見交換が行われた。

③ 様々な料理・お弁当コンテストにて入賞

- イズミヤ(株)・健康おおさか21推進府民会議・大阪府主催「第13回 愛情お弁当コンテスト」において、「愛情お弁当部門」478通の応募の中から、管理栄養学科3年生の中藤舞さんの「わくわくヘルシー弁当」が特別賞を受賞した。



- 第2回「カルローズ料理」コンテストに参加し、調理・栄養関連学生部門において、管理栄養学科4年生の吉野日奈子さんが優秀賞を受賞した。



5. 製菓学院

<事業計画>

専門教育レベルの向上および定員確保を図るとともに、社会人基礎力の育成、スイーツ学のネットワーク化を継続していく。また、様々なイベントを通じた製菓専門技術と共同作業を通じたチームワーク力の向上を図るとともに、話題提供によるマスコミ取材を通じたPR活動を積極的に展開する。

1. 定員確保に向けた取り組み

製菓学院専門学校では、様々なイベントを通じ、製菓専門技術と共同作業を通じたチームワーク力の向上を図っており、イベントにおいて作成された様々なお菓子によって、マスコミ取材を通じて、大手前製菓学院の広報につなげている。

さらには、昨年グランフロント大阪にオープンした大手前大学の情報発信基地である「大手前大学スイーツ・ラボ」にイベント作品を展示し、一層のPR効果の向上につなげている。

① 新たなオプションコース「スペシャル」系が誕生

2015年度募集の新入生カリキュラムから、プレミアム系特別実習を新たに「4つの専攻」としてセグメントを実施し、プレミアム系では4専攻すべて受講できるのに対し、2専攻を選択できる「スペシャル系」を新設して、海外研修にも参加でき

るリーズナブルな料金体系を設定することにより、他校との差別化を図った。オープンキャンパスにおいては、「4つの専攻」科目が脚光を浴び、2015年度2年コース入学者のうち、56名がスペシャル系を選択し、学生募集定員超過の起爆剤となり、2年コース入学者合計も定員を上回る121名となった。



② オープンキャンパスにリピーターコースを設け、模擬実習を体験

6月開催のオープンキャンパスから、通常の学校説明～体験実習～校内見学～個別相談といったコースとは別に、過去のオープンキャンパス来場者を対象に、実習をメインにした本物の授業に近い模擬実習を体験できる特別実習コースを設定し、再来場を促進した結果、約60名近い参加があり、参加者のほとんどが第1期入試にエントリーするという成果につながった。



③ 大手前フェスタ「お菓子の日本一企画」の取り組み

本年度の大手前フェスタが10月31日(木)・11月1日(金)に開催された。恒例の日本一企画は、「ショコラ動物保護園～絶滅危惧動物を守れ!」をテーマにチョコレート約13,000個を使用したホッキョクグマの「ショコマ」くんを中心に、お菓子で制作された動物たちが多数展示され、フェスタ前日の10月30日(水)

には、追手門学院小学校1年生約150名を招いてお披露目式を開催した。完成式からフェスタ当日まで、朝日新聞・読売新聞など複数のメディアに取り上げられ、広報効果も上々であった。



④ 第17回大菓祭（卒業・修了制作展）を開催

製菓学院の大菓祭（卒業・修了制作展）が2月21日（土）～23日（日）にかけて、C・D棟中心に行なわれました。学生達が1年間、または2年間の集大成を存分に発揮するべく、練習に練習を重ねて作り上げ、想いが詰まった作品が展示された。また、理事長賞はじめ上位入賞作品について、「大手前大学スイーツ・ラボ」において3月末まで展示され、製菓学院のPRを行った。



2. 製菓技術の向上

① 第49回 大阪府洋菓子コンテストに初挑戦

11月17日（月）大阪府中央公会堂で開催された『大阪府洋菓子コンテスト「水都なスイーツ」～クリスマスケーキコンテスト』に本校学生が初挑戦した。

本コンテストにチャレンジするため、技能向上オプションコースを設定、コンテスト参加希望者 35 名が、6 月から土曜日を中心に、課題製作に向け取り組んだ。コンテスト本番では、他の製菓衛生師養成校に交じって、ブッシュ・ド・ノエルの部で 2 名、マジパン細工の部で 3 名の学生が優良賞を受賞した。



⑫ 製菓衛生師試験に 76 名が合格

2014 年度製菓衛生師試験は、関西広域連合による試験が 7 月 13 日に行われ、2 年コース在籍者 93 名が受験し、69 名が合格した。他県で受験した合格者を含めると、製菓衛生師試験合格者は合計 76 名となり、在籍者における合格率は 81.7%と 80% 超を達成した。

3. 専門学校共通

1. 学生確保に向けた入試広報活動

2015 年度新入生定員確保に向け、オープンキャンパスやガイダンス・高校訪問を主体に入試広報活動を行った。また、2013 年 4 月にグランフロント大阪に出店した「大手前大学スイーツ・ラボ」において運用 2 年目を迎え、大手前大学の情報発信基地として様々な広報活動を展開した。

① オープンキャンパスの開催

オープンキャンパスでは学校説明・校内見学・体験授業・在校生メッセージなど盛りだくさんの企画を用意し、本年 3 月から栄養学院は 19 回、製菓学院では 21 回開催した。



② 「チョコレート展」に出展

この12月グランフロント大阪で開催された「チョコレート展」に大手前学園70周年事業として協賛し、大手前製菓学院の日本一企画で製作されたチョコでできた白くま「ショコマ」をはじめ、チョコレートで作られた数々の動物が展示された。

2. 「ヘルシー志向スイーツ」取り組み

2015年2月に両学院の先生がコラボし、「なにわ伝統野菜を使用したヘルシースイーツ」の作成に取り組み、老人ホームにおいて試食会を開催した。材料に「勝間南瓜（こつまなんきん）と茄子」を使用したスイーツを作成し、入所者やデイサービス利用者・ホーム職員に楽しんでもらった。



● 財務の状況

【消費収支計算書】

(単位:千円)

科 目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
(消費収入の部)					
学生生徒等納付金	5,026,180	5,012,231	4,868,820	4,570,021	4,201,007
手数料	57,742	52,042	47,479	40,970	45,543
寄付金	6,460	22,598	13,407	13,043	49,696
補助金	422,499	368,521	419,513	544,582	337,249
資産運用収入	94,976	98,212	85,472	107,039	106,311
事業収入他	110,714	99,774	115,072	253,432	351,344
帰属収入合計	5,718,571	5,653,378	5,549,763	5,529,087	5,091,150
基本金組入額合計	△ 585,994	△ 744,695	△ 896,739	△ 794,033	△ 281,834
消費収入の部合計	5,132,577	4,908,683	4,653,024	4,735,054	4,809,316
(消費支出の部)					
人件費	2,573,309	2,593,150	2,632,123	2,691,589	2,502,069
教育研究経費	1,926,583	1,812,962	1,782,980	1,775,644	1,696,040
管理経費	750,392	818,097	771,350	777,808	777,814
借入金等利息	36,557	29,024	22,078	9,429	6,853
資産処分差額他	58,173	37,076	24,009	34,670	21,536
消費支出の部合計	5,345,014	5,290,309	5,232,540	5,289,140	5,004,312
当年度消費収入超過額	△ 212,437	△ 381,626	△ 579,516	△ 554,086	△ 194,996
翌年度繰越消費支出超過額	1,874,297	2,255,923	2,835,439	3,389,525	3,584,521

【貸借対照表】

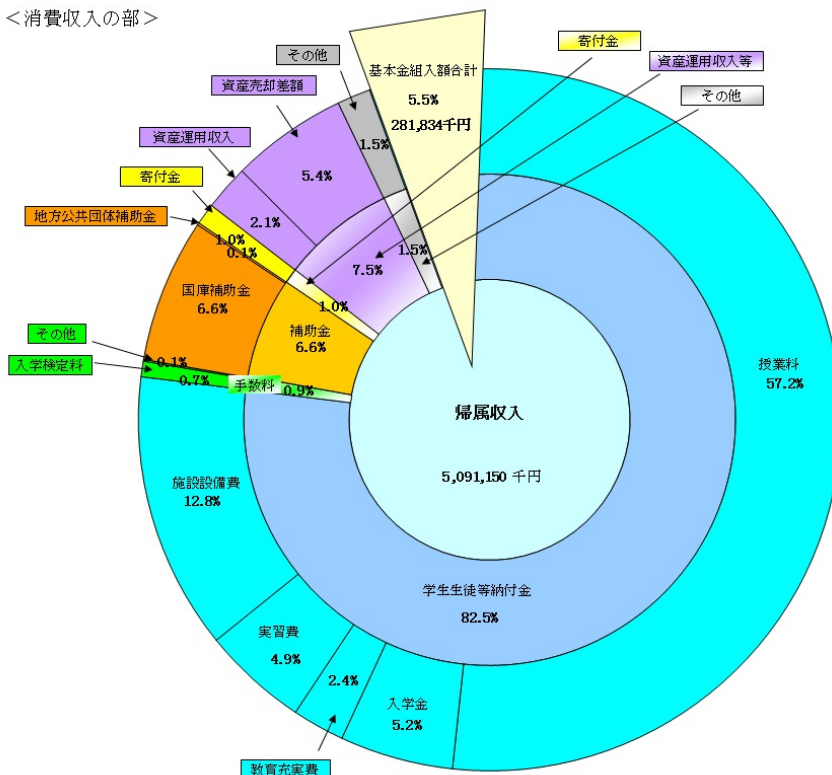
(単位:千円)

科 目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
(資産の部)					
固定資産	37,157,044	37,232,607	37,474,121	37,645,888	37,022,032
有形固定資産	29,693,341	29,458,254	29,581,808	29,527,613	29,016,313
土地・建物・建物附属設備・構築物	27,622,584	27,316,305	27,057,261	27,175,410	26,753,272
機器備品	650,050	679,978	795,028	837,726	724,083
図書	1,413,066	1,436,146	1,475,199	1,506,720	1,534,303
その他	7,641	25,825	254,320	7,757	4,655
その他の固定資産	7,463,703	7,774,353	7,892,313	8,118,275	8,005,719
特定資産	5,048,456	5,584,803	6,117,189	6,482,689	6,533,281
その他	2,415,247	2,189,550	1,775,124	1,635,586	1,472,438
流動資産	3,063,282	2,876,867	2,590,164	2,201,326	2,844,632
資産の部合計	40,220,326	40,109,474	40,064,285	39,847,214	39,866,664
(負債・基本金・消費収支差額の部)					
固定負債	1,834,481	1,441,556	1,269,589	1,094,186	970,760
長期借入金	1,036,975	754,147	581,429	439,711	297,993
学校債	130,000	0	0	0	0
長期前受金他	1,890	1,170	1,679	2,969	2,883
退職給与引当金	665,616	686,239	686,481	651,506	669,884
流動負債	1,583,948	1,502,951	1,312,506	1,030,891	1,086,928
負債の部合計	3,418,429	2,944,507	2,582,095	2,125,077	2,057,688
基本金の部	38,676,195	39,420,890	40,317,629	41,111,662	41,393,496
消費収支差額の部	△ 1,874,297	△ 2,255,923	△ 2,835,439	△ 3,389,525	△ 3,584,520
負債・基本金・消費収支差額の部合計	40,220,327	40,109,474	40,064,285	39,847,214	39,866,664

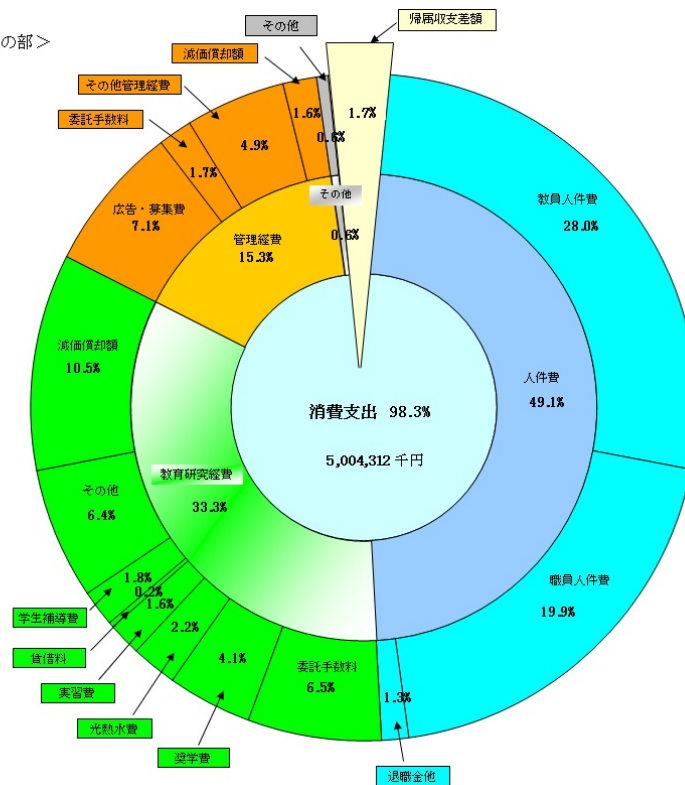
注. 基本金は、学校法人の継続的維持を目的として設定されており、施設設備の取得等を行った時に、その額を消費支出に充当させないよう帰属収入から控除して 組入れすることになっています。(学校法人会計基準<文部省令第18号>)

【消費収入・支出割合】

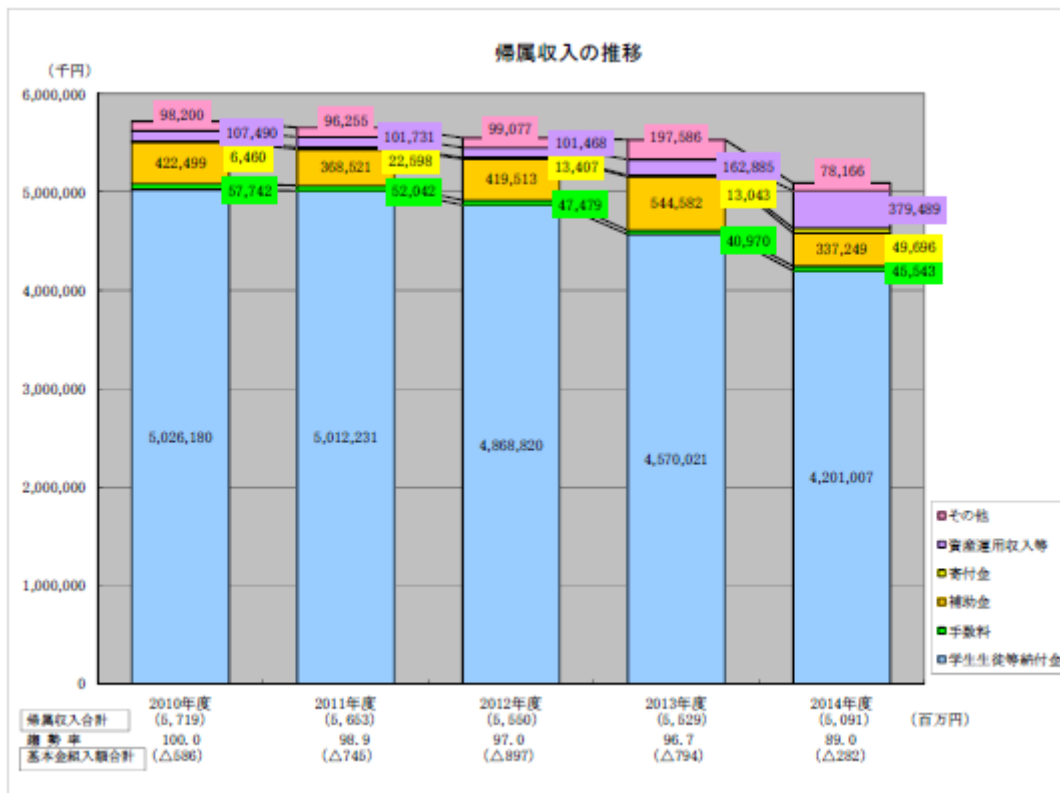
<消費収入の部>



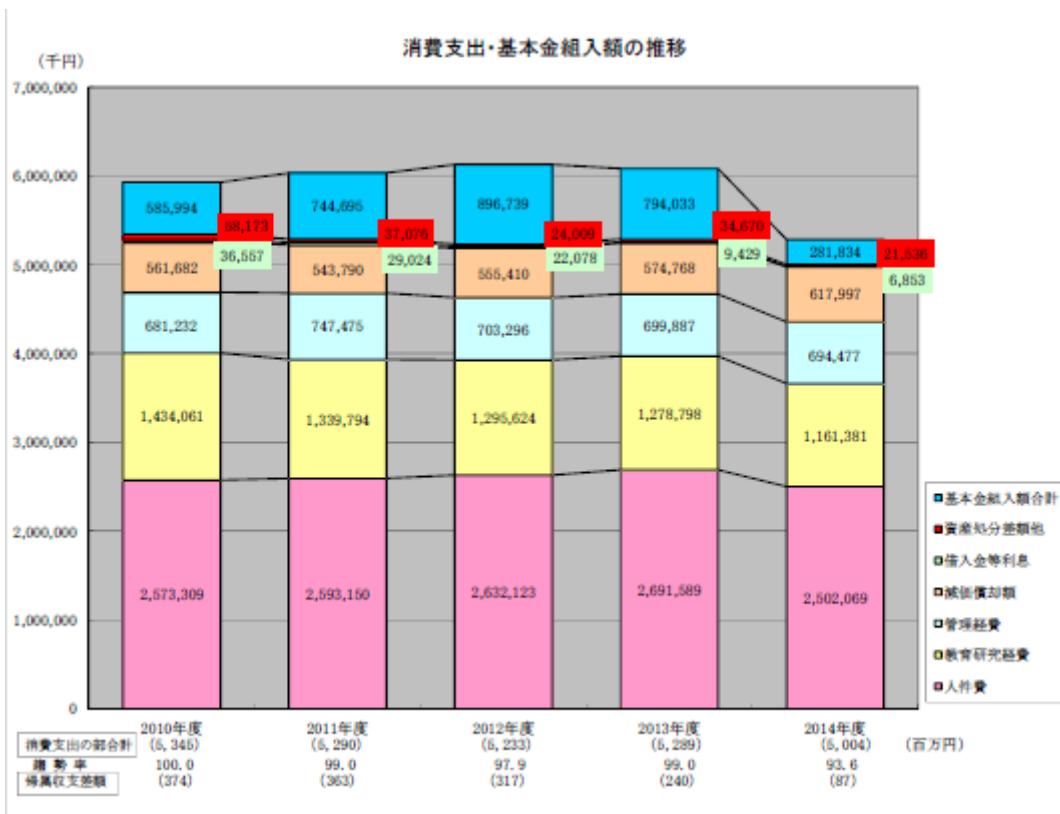
<消費支出の部>



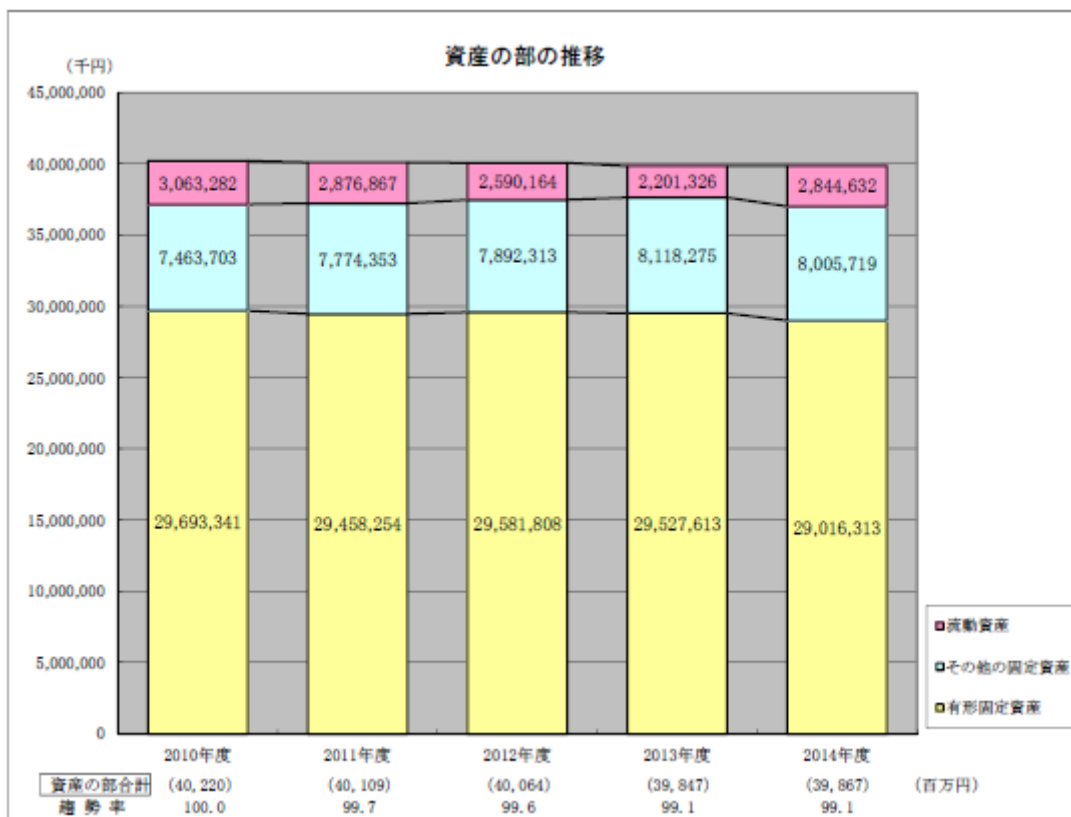
【帰属収入（推移）】



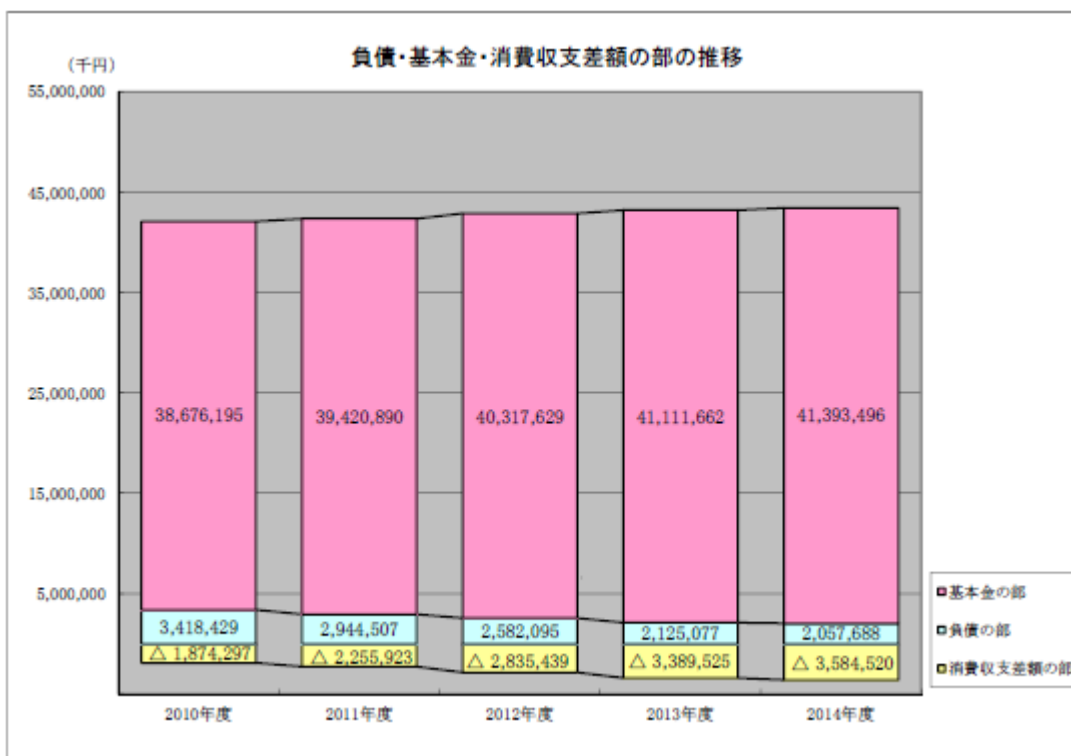
【消費支出・基本金組入額（推移）】



【資産（推移）】



【負債・基本金・消費収支差額（推移）】



2014 年度 事業報告書

学校法人 **大手前学園**

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前 2-1-88

大手前大学

〒662-8552 兵庫県西宮市御茶家所町 6-42

〒664-0861 兵庫県伊丹市稲野町 2-2-2

大手前短期大学

〒664-0861 兵庫県伊丹市稲野町 2-2-2

大手前栄養学院

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前 2-1-88

大手前製菓学院

〒540-0008 大阪府大阪市中央区大手前 2-1-88